

はじめに

新入生の皆さんは、縁あって本学理工学部に入學し、これからの学生生活に胸をはずませていることと思います。大学における生活は多面的かつ多彩ですが、その中心は勉学です。在学生の皆さんも、新学期を迎えて新たな決意と希望を持って勉学に取り組もうとしていることでしょう。

何事においてもそうですが、目標を設定し、その目標に向けてたゆまぬ努力を行うことが大切です。皆さんの探究心や積極性、自主性がその支えとなります。大学生活を通して、基礎力と幅広い教養、そして自分で課題を見つけ出し、よく考えて解決していくような力を身に付けて欲しいと思います。また、敬いと思いやりのある人格を培いながら高い見識を身に付け、グローバルに貢献するために不断の研鑽を積んで欲しいと思います。

この冊子は、皆さんの努力を支援し必要な情報を提供するための、「履修要項」と「シラバス」が合体して編集されたものです。理工学部において勉学を進めていく上で必要となる、重要事項が網羅されています。

「履修要項」には単位制度の説明からはじまり、卒業必要単位数、進級要件、履修登録方法の説明などが書かれています。なお、「数学」、「理科」、「工業」、「情報」の教員免許状に関する教職課程の説明は別冊に書いています。

「シラバス」には、すべての開講科目について、授業の内容や方法、授業計画や教科書・参考書、履修方法、成績の評価方法等が書かれています。科目の履修登録の際に、履修すべきかどうかの重要な判断材料を与えてくれます。さらに、日々の授業の際の、予習・復習のためのガイドとして有効に利用して下さい。

理工学部では、自分の将来にむけてのキャリア啓発の第一歩として、新入生対象に「キャリアデザイン」、2年次生対象に「キャリアプランニング」を開講しています。是非受講して下さい。

また、読んでみて意味不明や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口にご相談に来て下さい。履修の仕方を誤ったがために卒業延期等の事態を招くことがないようにして下さい。

皆さんの学生生活が楽しく実り多いものとなることを願っています。

2010年4月

理工学部長 大柳 満之

龍谷大学の教育にかかると基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を形成する。

理工学部と教育理念・目的

建学の精神に基づいて、科学と人間の調和を重視し、理学と工学における基礎から応用にいたるまでの広範な教育・研究を通じて技術の高度化に対し貢献できる高い倫理観を持った科学技術者を育成することを目的とする。

学位授与の方針【学士（理学・工学）】

理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

[学生に保証する基本的な資質]

(建学の精神)

- 仏教、ことに浄土真宗に基づいた建学の精神、すなわち「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の意味を深く理解している。
- 豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 科学技術の進歩に対応できる専門分野の基礎から応用にいたる知識を身につけている。
- 英語についての基本的な知識を持ち、英語と日本語の基本的な成り立ちや機能の違いを理解している。
- 幅広く社会全体を見渡すために必要な知識や教養を身につけている。

(思考・判断)

- 科学技術が自然や社会に対してどのような影響力を持っているかをよく理解し、グローバルな視点から自律的にまた論理的に判断することができる。
- 基本的な論理的思考能力を持ち、外国の文化や事情について柔軟かつ公正な思考、判断ができる。
- 論理的能力・問題解決力を身につけている。

(興味・関心)

- 問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学を継続的に行うことができる。
- 広く日本を取り巻く国際情勢や文化に対する興味を持ち、国際的な視野から幅広い知識を身につけている。

(態度)

- 高い倫理性をもって、専門的知識と技術を総合的に活用することができる。
- 世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。
- 日本語だけでなく英語を通じて、外国からの情報を得、文化を理解吸収しようとする姿勢を持つ。

(技能・表現)

- 科学技術の進歩に対応できる基礎から応用にいたる専門的技術を身につけている。
- 知的生産の技術を身につけている。
- 国際化時代に対応できる英語で読む・書く・聴く・話すという四技能の基礎的運用能力を持っている。

[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]

- (1) 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- (2) 卒業認定を受けるためには、所定の134単位以上の単位数を必要とする。
- (3) 卒業年次には、「特別研究論文（卒業論文）」を提出し、審査に合格しなければならない。

教育課程編成・実施の方針

理工学部の「教育理念・目的」、「学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専門科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境の向上・学習支援態勢を整備する。

- 仏教の思想と高い倫理性を養うための科目である「仏教の思想」（2科目）を必修科目として設置する。
- 視野の広い技術者となるために必要な幅広い教養を身につけるため、教養教育科目を人文社会学系学部と共同で開講する。
- 国際化に対応できる語学力を身につけるため、読む・書く・聞く・話すことを基礎とする英語科目を1年次から連続して開講し、その後、理工学部専任教員による科目においてより専門的かつ実践的な英語教育を展開する。
- 専門科目を1年次から配置して、基礎から応用への体系的なカリキュラム体制とする。専門基礎科目においては、講義科目と演習を組み合わせ、知識を確実に身につけさせる。加えて、外部講師による最先端の科学に関する講義科目や「学外実習」等の企業現場や実地研修を行うインターンシップ型科目を専門の講義科目と併せて行う。

2010年度 学 年 曆

	日	月	火	水	木	金	土
4月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	
5月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
6月	30	31					
		1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
7月	27	28	29	30			
				1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
8月	25	26	27	28	29	30	31
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
9月	29	30	31				
		1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30			

- 1 学年始
- 2 入学式 (瀬田)
- 2~8 履修指導期間
- 9 第1学期授業開始

- 21 ご生誕法要 (瀬田)
- 29 昭和の日 (授業実施日)

- 3 憲法記念日
- 4 みどりの日
- 5 こどもの日

- 19 降誕会 (午後休講)
- 21 創立記念日・降誕会 (全学終日休講)
- 22 降誕会 (瀬田) (全学授業実施日)
- 23 降誕会 (深草)

- 12 水曜日 午後8回分
- 14~18 履修辞退受付期間
- 21 ご生誕法要 (瀬田)

- 17 集中補講日 (①/②)
- 19 海の日 (授業実施日)
- 21 ご生誕法要 (瀬田)
- 21 第1学期授業終了
- 22~23, 26~8/3 第1学期試験期間
- 24 集中補講日 (②/②)

- 4~10 集中講義Ⅰ
- 4~9/10 夏期休業
- 11~18 一斉休暇
- 20~23 追試験期間

- 24~9/4 サマーセッションⅡ
- 30~9/11 集中講義Ⅱ
- 23~9/11 理工学部学外実習

- 11 第2学期開始
- 11~22 履修指導期間
- 17 9月卒業式・入学式

- 20 敬老の日
- 23 秋分の日
- 24 第2学期授業開始

	日	月	火	水	木	金	土
10月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
11月	31						
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
12月	28	29	30				
			1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
1月	26	27	28	29	30	31	
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
2月	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
3月	20	21	22	23	24	25	26
	27	28					
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			

- 11 体育の日 (授業実施日)
- 18 報恩講 (全学終日休講)
- 21 ご生誕法要 (瀬田)
- 30~31 龍谷祭 (瀬田) (30 全学終日休講)
- 3 文化の日
- 5~7 龍谷祭 (深草) (5・6 全学終日休講)
- 23 勤労感謝の日
- 29~12/3 履修辞退受付期間
- 21 ご生誕法要 (瀬田)
- 23 天皇誕生日 (月曜日13回分)
- 24, 27~28 集中補講日
- 29~1/5 冬期休業
- 29~1/5 一斉休暇
- 1 元日
- 6 講義再開
- 10 成人の日
- 19 授業終了
- 20~2/1 第2学期試験期間
- 2/2~3/31 春期休業
- 11 建国記念の日
- 入試終了2日後から3日間追試験期間 (予定)
- 18 卒業式 (瀬田)
- 21 春分の日
- 31 学年終

⚠ 注意事項

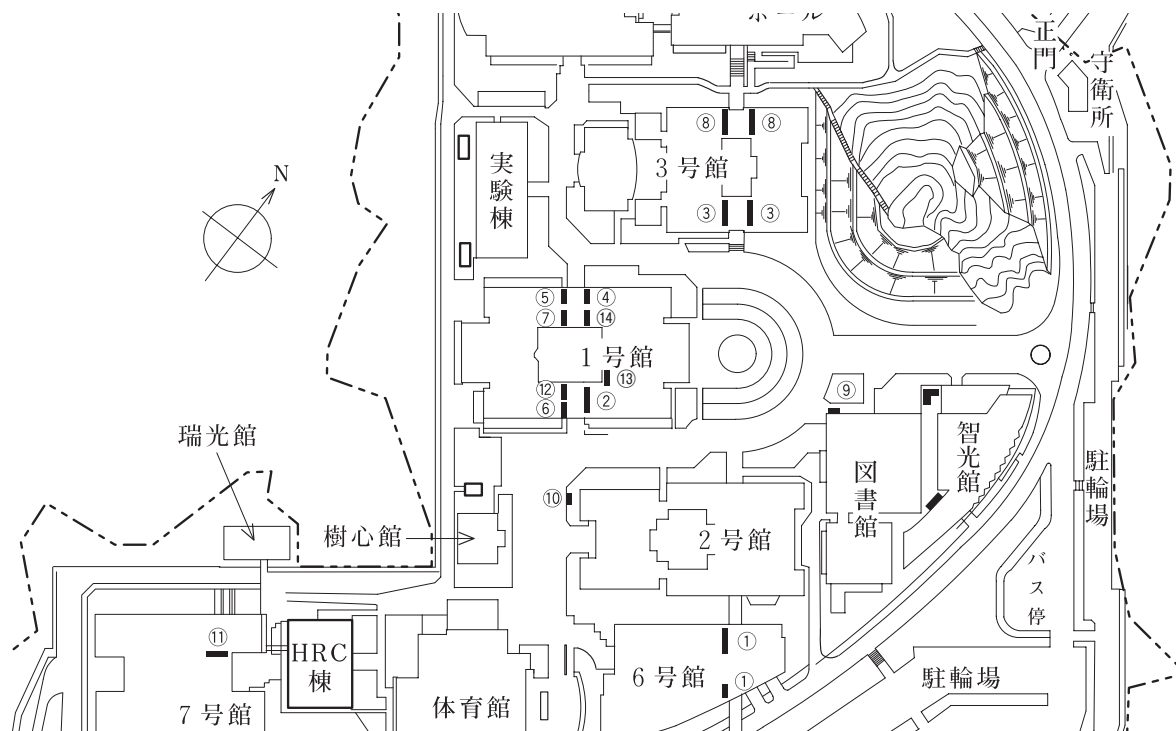
1. ご生誕法要は、12時15分から13時15分です。2講時の授業終了を15分繰りあげて実施します。
2. 土曜日の3・4講時にも補講が行われる場合があります。

	授業日
	補講期間
	定期試験

大学からの連絡・通知の掲示

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行われます。掲示を見落としたために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。電話による問い合わせについては、間違いが起こり得ますので一切応じません。



掲 示 板

学部掲示板

大学全般に関する連絡

学内行事・窓口業務についての連絡・呼び出し・その他

授業に関する連絡

授業・休講通知・教科についての一般事項
定期試験・追試験に関する連絡

- ①…社会学部教務課
- ②…理工学部教務課
- ③…国際文化学部教務課
- ⑪…理工学部（補助的運用）
- ⑬…理工学部（臨時的運用）

学生部（瀬田）、瀬田教学部

- ④奨学金
- ⑫学生生活
- ⑥教職関係

キャリア開発部（瀬田）掲示板

- ⑤インターンシップ関係
- ⑦就職ガイダンス関係
- ⑭就職・資格講座等に関する連絡

国際交流関係掲示板 ⑧

図書館関係掲示板 ⑨

宗教部専用掲示板 ⑩

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所を変更する場合があります。

…登校したら掲示板を
下校前にも掲示板を…

休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報を本学のポータル上で次のとおり公開しています。

(1) アクセス方法 <パソコン用>

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルログイン」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

<携帯電話用>

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルサイトをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開の範囲 本学開講科目

(3) 公開の期間 <パソコン用>

休講：休講日を含めて30日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

<携帯電話用>

休講：休講日を含めて3日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて3日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

(4) 注意事項 ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。

・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず学部の掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※他学科等のシラバスや時間割については理工学部HP (<http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/>) を参考にして下さい。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「プロフィール設定」で設定可能です。

ガイダンス

新学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

最初のガイダンスでは、みなさんが学修の履修計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、教職など諸資格取得のためのガイダンスも開催されます。これらの連絡は、掲示により行われるので十分注意しなければなりません。

2010年度 理工学部学年始ガイダンス日程

<書類配布、説明会等日程>

行事 年次	成績表・書類配布 履修登録説明会	学科別履修説明会
新 入 生	4月4日(日) 9:00集合	左記書類配布等終了後
新2年次生	3月25日(木) 9:30集合	左記書類配布等終了後
新3年次生	3月25日(木) 13:30集合	左記書類配布等終了後
新4年次生	3月25日(木) 15:30集合	左記書類配布等終了後

⚠️注意事項

- 大切な伝達事項等があるので、上記の日程には必ず出席してください。
なお、やむを得ず出席できない場合は、事前に理工学部教務課に連絡の上、指示を受けてください。
- 書類配布日には、成績表、登録関係書類等を配布するので、学生証を持参のうえ、必ず本人が受け取りに来てください。

<各説明会会場>

学 科	教 室	
	新入生	2～4年次
数理情報学科	別途指示	3号館101教室
電子情報学科		3号館105教室
機械システム工学科		3号館106教室
物質化学科		3号館107教室
情報メディア学科		7号館講義室1
環境ソリューション工学科		7号館講義室2

☆成績の疑義申し出については、成績表配布日を含めて3日間(土・日除く)です。

申し出は、理工学部教務課に備えつけの用紙で行ってください。

<履修登録日程>

	予備登録期間	受 付
全 年 次 (新入生除く)	3月25日(木) 9:00～3月29日(月) 13:00 <2:00～7:00除く> 発表:4月8日(木) 9:00～Web登録画面にて発表 ※ただし、英語(再)の予備登録については、別途掲示板で指示	Web予備登録画面
	事前登録期間	受 付
全 年 次 (新入生除く)	3月25日(木) 9:00～3月29日(月) 13:00	理工学部教務課
	授業科目受講登録期間	受 付
全 年 次	4月8日(木) 9:00～4月13日(火) 16:00 <2:00～7:00除く>	Web登録画面

2010年度 学生定期健康診断日程表(理工学部)

対象学年	性別	月 日	受付時間	受検学舎	健診項目
新入生・編転入生	男性	4月6日(火)	9:00～12:30	瀬田学舎 4号館 一階	胸部X線 身体計測 尿検査 問診 内科診察 (必要時)
新入生	女性	4月6日(火)	13:00～14:30		
編転入生		4月8日(木)	10:00～12:30		
2年次生・3年次生	男性	4月5日(月)	14:00～16:30		
		4月6日(火)	10:30～12:30		
		4月7日(水)	10:00～12:30		
		4月8日(木)	14:30～16:30		
	女性	4月5日(月)	10:00～12:30		
		4月6日(火)	14:30～16:30		
		4月7日(水)	14:00～16:30		
		4月8日(木)	10:30～12:30		
4年次生以上 大学院生 介護等体験実習生	男性	4月5日(月)	13:00～16:30		上記項目 + 視力
		4月7日(水)	9:00～12:30		
	女性	4月5日(月)	9:00～12:30		
		4月7日(水)	13:00～16:30		

※健康管理カード(問診票)・尿容器は履修説明会時に配布します。詳細はホームページ・ポータルサイトで案内しますので確認してください。

注意事項

1. **学生証**を忘れず持参のこと。
2. 健診は混雑が予想されます。**受付時間内の早め**に受付を済ませること。
3. 指定日時に受検できない場合は、**他学部の同学年・同性の時間**に受検し、未受検のないようにすること。
4. 2・3年次生で今年度、介護等体験実習受講予定の学生は、視力検査が必要!4年次生以上・大学院生の日時に受検すること。
5. 服装は、無地でボタン・金属等のないTシャツとし、アクセサリーはつけないで受検すること。
6. 貴重品は各自が責任もって管理すること。
7. 受検当日、健康管理カード(記入しておくこと)・尿容器(採尿した)を持って受付すること。
※受付後に、採尿することのないように!
8. この期間中に健康診断を受検しないと、2010年度中の診断書の発行はできません。
9. 社会人等で職場などの定期健康診断(本学における実施項目を含んでいるもの)を受検している場合は、その結果のコピーを提出することによって受検に替えることができますので、保健管理センターに相談すること。

心身ともに健康な学生生活を送るために ～保健管理センターの利用について～

1. 保健管理センターについて

保健管理センターは、深草・大宮・瀬田の各学舎にあり、学生の皆さんが心身ともに健康な学生生活を送れるよういろいろな支援をしています。

【主な業務】

- * 定期健康診断および定期健康診断後の再検査・保健指導など
- * 健康診断書の発行
- * 応急処置・健康相談（健康に関する相談全般）
- * 精神相談（専門医によるカウンセリングと治療）
- * 診療（内科・精神科 ～保険証が必要～）
- * 学生相談（こころの相談室におけるカウンセリング）
- * 健康に関する調査・研究・教育
- * 健康増進のための学習会の主催

2. 定期健康診断について

【検査項目】

検査項目	年次	学部生				大学院		短期大学部			法科 大学院
	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年以上	1年	2年	専攻科		
問診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
身長・体重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
胸部X線検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
尿検査（蛋白・糖）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
視力				○	○	○		○	○	○	
内科診察（必要時）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	

※内科診察は、看護師の問診等により必要と認めた学生のみ実施。

【実施時期】

毎年、3月から4月に実施。指定された日に受けるようにしてください。

指定日に受けられない場合は、他学部の同性の日に必ず受検し、未受検のないよう注意してください。

勤務先（会社など）にて健康診断を受けられる方は、健診結果を保健管理センターへ提出してください。（コピーでも可）。

詳しい日時や場所は、掲示板や保健管理センターのホームページなどを注意して見るようにしてください。

3. 健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書（診断書）は、本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。

従って本学の定期健康診断を受けていない場合は、発行できません。

本学の定期健康診断を受けられなかった場合は、保健管理センター窓口でご相談ください。

【健康診断証明書について】

定期健康診断結果を証明する「健康診断証明書」は、自動発行機でその年度の学位授与日まで発行します。（既往症や尿検査結果は、記載されていません。）

用途は、就職活動や本学に提出する各種実習受講・奨学金申請等に限られます。

【健康診断書について】

進学や大会参加・アルバイトなど診察した医師の総合判定が必要な健康診断書は、診療所で発行します。

検査項目等によっては、即日発行が出来ない場合もありますので、保健管理センター窓口指定用紙や要項を持参の上、余裕を持って申し込んでください。

4. 保健管理センターの利用について

① 応急処置や休養室の提供

医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガの時には、看護師が応急処置や休養室の提供を行っています。ただし、けがの程度や病状により医療機関での受診が必要と判断した場合は、診療所や外部医療機関を紹介することになります。

② 健康相談

健康上の相談や悩みがあるときは、気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり、カウンセラーや医師に紹介します。

③ 保健・医療に関する情報提供

保健管理センターには、身長計・体重計・体脂肪計・視力計・自動血圧計などが設置されています。自己の健康管理に利用してください。

また、大学近辺の医療機関やタイムリーな健康情報などを随時、ホームページにて掲示しますので、チェックするようにしてください。

URL：http://www.ryukoku.ac.jp/hoken/

【保健管理センター開室時間】

〔深草学舎・大宮学舎〕 8：45～17：15（昼休み11：30～12：30）

〔瀬田学舎〕 9：00～17：30（昼休み11：45～12：45）

※いずれも授業開講中の時間。窓口時間の変更がある場合は掲示等でお知らせします。

5. 診療所について

保健管理センターでは、診療所を併設し、内科・精神科の保険診療を行っています。

【診療科名】 内科・精神科

【診療日及び時間】 詳しいことは、保健管理センターのホームページにて確認してください。

【費用】 診療には、「健康保険証」が必要です。コピーされた保険証は使用できません。

健康保険証を持ってない人は、早急に手続きをして「遠隔地被保険者証」を取り寄せてください。

遠隔地被保険証の発行は、証明書自動発行機で在学証明書を取り、これを保護者に送付し、保護者の勤務先（社会保険）へ申請してください。また、自営業の場合は、市・区・町村役場（国民健康）に申請すれば作成してもらえます。

※医師の診察を受けないで薬だけお渡しすることはできません。症状は、身体からの「SOSサイン」ですから、必ず医師による診察を受けてください。

6. 学生相談（なんでも相談コーナー）について

学生生活を有意義に送ることができるよう、学生部の中に「なんでも相談コーナー」を設けています。学生生活を送る中で、生活上の問題、修学上の問題、進路の問題、交友関係、心や健康に関する不安など、様々な問題に遭遇することがあります。

そんな時は一人で考え込まず、どんな小さなことでも気軽に「なんでも相談コーナー」を訪れてください。

※学生部内の「なんでも相談コーナー」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。

希望に応じて、専門のカウンセラーによる相談を受けることもできます。

7. こころの相談室について

こころの相談室では、悩みや問題などを解決するために専門のカウンセラーが相談に応じています。悩みの解決の仕方はいろいろありますが、人に相談するというのは最良の方法です。

こころの相談室では、そんな学生のためにお役に立ちたいと願っています。相談を受けた事柄の秘密は固く守りますので安心して来室してください。

開室日時

予約日：月～金曜日 9：30～12：30 / 13：40～16：30 4号館地下1階

8. 健康増進のための学習会について

心身ともに充実した学生生活が遅れるよう随時、健康学習会（ライフスタイル改善教室）を予定しています。随時、ポータルサイト等で連絡しますのでチェックし積極的に参加してください。

目 次

はじめに

龍谷大学の教育にかかわる基本方針 理工学部教育理念・目的

2010年度学年暦

大学からの連絡・通知の掲示

ガイダンス

2010年度学生定期健康診断日程表（理工学部）

保健管理センター利用について

履修の心得

I 履修をはじめるにあたって	2
1. 長期的な履修計画を立てること / 2. 系統的に科目を履修すること 3. 自主的に学修をすること	
II 単位制度と単位の認定	3
1. 単位制度 / 2. 単位とは / 3. 単位の認定 / 4. 履修登録制度 5. 授業科目の履修 / 6. 履修辞退制度 / 7. 授業時間 / 8. 卒業要件単位および学士号 9. 進級制度 / 10. セメスター制 / 11. 入学前に修得した単位の認定	
III 履修登録	8
1. 履修登録手続のスケジュール / 2. 履修登録に際しての注意事項 / 3. 履修登録制限 4. 予備登録 / 5. 履修登録要領 / 6. 履修登録の確認	
IV 成績評価	12
1. 成績評価の方法 / 2. 成績評価の基準 / 3. 成績疑義 / 4. 平均点とGPA	
V 筆答試験	14
1. 試験の時期 / 2. 受験資格 / 3. 受験の注意事項 / 4. 答案の無効 5. 筆記試験における不正行為 / 6. 追試験 / 7. 筆答試験時間 8. レポート試験における不正行為	
VI 教育支援	17
1. 学科の委員 / 2. クラス担任制 / 3. 教員との面談 / 4. T.A.制度 5. チューター制度 / 6. L.A.制度 / 7. ライティングセンター / 8. その他	

教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標	20
II 物質化学科の教学理念と教育目標	22
III 教育課程の編成・履修方法	28
1. 授業科目の区分 / 2. 必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目 3. 各科目の履修方法について	
①教養教育科目（共同開講科目）の履修方法	29
1. 必修科目の履修について / 2. 学科指定・クラス指定 / 3. 予備登録について 4. 先修制について / 5. 予備登録について（総合科目） / 設置科目	
②教養教育科目（共同開講科目）カリキュラム対照表	38
1. 教養教育科目（共同開講科目）基礎科目 2. 教養教育科目（共同開講科目）総合科目	
③固有科目の履修方法	42
1. 学部内共通科目の履修方法 / 2. 学科固有科目の履修方法 / 3. 卒業・進級の要件 4. 設置科目 / 5. カリキュラムフローチャート	

④学科固有科目カリキュラム対照表	60
⑤他学科科目の履修について	62
⑥単位互換制度について	63
⑦日本技術者教育認定機構（J A B E E）について	67
⑧卒業年次生の大学院授業科目の履修について	68
Ⅳ 諸課程等の履修方法	69
①教職課程	69
②本願寺派教師資格課程	69
③特別研修講座	70
Ⅴ 協定型インターンシッププログラム	71

学修生活

I 窓口事務	74
1. 学部窓口取扱時間 / 2. 届書・願書および各種証明書 3. 各種証明書の交付について / 4. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて	
II 授業休止の取り扱い基準	78
1. 全学休講とする場合 / 2. 授業等の開始基準 / 3. その他の注意事項	
III 学籍の取り扱い	79
1. 学籍とは / 2. 学籍簿 / 3. 学生証 / 4. 学籍の喪失 / 5. 休学と復学 6. 年次 / 7. 再入学 / 8. 編入学・転入学 / 9. 9月卒業について	
IV 留学	84
1. 交換留学 / 2. BIE Program留学 / 3. 私費留学 4. 個人留学（休学して留学する） / 5. 短期留学	
V 通学について（自転車・バイク・自動車）	86
1. 自動車通学の禁止 / 2. バイク・自転車通学 / 3. バイク・自転車の駐輪 4. 交通安全教育講習会について / 5. 自動車の臨時入構許可について	

シラバス

I 教養教育科目（共同開講科目）基礎科目	91
II 教養教育科目（共同開講科目）総合科目	161
III 学部内共通科目	197
IV 学科固有科目	221
V 教職課程科目	257
VI 本願寺派教師資格課程科目	271

付録

I 教員名簿	278
II 瀬田学舎近隣医療機関	280
III 瀬田学舎見取図	283
IV 履修要項・Syllabus利用の手引き	284

TOEIC[®]はエデュケーショナル・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。
この印刷物はETSの検討をうけたまたはその承認を得たものではありません。

TOEFL[®]はエデュケーショナル・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。
この印刷物はETSの検討をうけたまたはその承認を得たものではありません。

履 修 の 心 得

教 育 課 程

学 修 生 活

履 修 要 項

履修の心得

I 履修をはじめるときにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組み合わせがあります）。卒業に必要な単位の取得は、学部設置されている授業科目にもとづいて行われます。単位とは、それぞれの授業科目を通して得られる学修の量をあらわすものです。

授業科目は、「**教養教育科目**（共同開講科目）」、および「**固有科目**」からなります。みなさんはこれらの科目群から卒業に必要な一定の単位数を満たすよう履修しなければなりません。

各学年ごとに、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお年度によって開講される科目が異なるので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてるときは、同時に次年期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに分類されます。

必修科目とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

選択必修科目とは、指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

選択科目とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があり、この要件を欠く場合は卒業の認定を受けることができません。

随意科目とは、単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」や各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

また、理工学部では各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。4年間で卒業要件を満たすとともに各学年毎に進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いて下さい。

2. 系統的に科目を履修すること

各学年に設置されている授業科目、カリキュラムフローチャートを参考にして、系統だった履修をすることが重要です。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格や開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組む、専門的な視点に立って研究するのが求められます。テーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われてはじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

Ⅱ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制というのは、すべての科目に一定の単位数が定められており、みなさんがその科目の授業を受け、かつ、その試験に合格した場合、定められた単位が与えられます。その単位の合計が一定の要件における一定の単位数を満たした者に対して卒業が認定される制度です。

2. 単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学修時間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

(1) 単位の計算方法

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○ 講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位
学期連結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき）＝4単位

○ 外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき）＝1単位
学期連結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位

3. 単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなり

ません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、**履修登録**をすること。
- (2) その科目の授業に**出席**し、履修に必要な**学修**をすること。
- (3) その科目の**試験**を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認してください）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

4. 履修登録制度

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることができません。履修登録は、学修計画の基礎となるわけであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければならないとされています。

5. 授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の**学修**をすることです。

学修の内容は、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するというものです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「シラバス（講義概要・授業計画）」によって指示される参考文献等を中心として、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっているとと言えます。

6. 履修辞退制度

※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録確認表配付後の、登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履歴は一切記録で残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履歴が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は**平均点**や**GPA**の計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	
事前登録が必要となる科目 ※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習科目 (教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB)	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部(学科・専攻・コース)において設定する科目 ※別表「◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり

※教養教育科目(共同開講科目)の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部	履修辞退の対象外とする科目
理工学部	基礎セミナー(対象学科/数理情報学科) 都市環境施設実験A、都市環境施設実験B(対象学科/環境ソリューション工学科) 学外実習

※これら以外に履修辞退対象外科目が生じた場合は、別途理工学部掲示版で掲示します。

(4) 履修辞退の申出期間

2010年度の履修辞退の申出期間は下記の日程です。なお、下記の申出期間以外の履修辞退の申し出は受付しません。

学期	履修辞退受付期間
第1学期(前期)	6月14日(月)～18日(金)
第2学期(後期)	11月29日(月)～12月3日(金)

※上記期間中でも、平日においては窓口取扱時間外での受付は行いません。また、土・日の受付は行いません。

※上記期間中、教育実習(介護等体験)・インターンシップ等参加により、やむを得ず申し出ができない学生のために、次のとおり随時受付を行います。

学期	受付期間
第1学期(前期)	6月1日(火)～6月11日(金)
第2学期(後期)	11月15日(月)～26日(金)

※上記期間においても申し出ができない理由を有する学生については、理工学部教務課窓口にご相談してください。

(5) 履修辞退の申出方法

上記、履修辞退の申出期間に「履修辞退届」(本学所定の用紙)を、理工学部教務課窓口へ提出してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目を第1学期(前期)期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期(後期)の当該科目分にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。
- なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期） （6月中旬）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期(前期)分はカウントしますが、第2学期(後期)分はカウントしません
第2学期（後期） （12月上旬）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生）が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分履修料は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

7. 授業時間

本学における1回の授業時間は、90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

	1講時	2講時	3講時	4講時	5講時
開始時刻	9：20	11：00	13：30	15：10	16：50
終了時刻	10：50	12：30	15：00	16：40	18：20

8. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、数理情報学科では「学士（理学）」、電子情報学科・機械システム工学科・物質化学科・情報メディア学科・環境ソリューション工学科では「学士（工学）」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、134単位以上を修得しなければなりません。

(1) 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

① 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。

これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

② 所定単位の修得

本学部の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに履修すべき単位数を指定しています。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

(2) 卒業の時期

卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

なお、在学期間が4年以上の学生で、卒業要件単位を修めた場合は、前期終了時（9月）に認定することがあります。（9月卒業）

⚠ 注意事項

9月卒業を希望する者は、4月初旬に所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても、9月卒業の対象にはなりません。

9. 進級制度

理工学部では、各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。履修登録するにあたっては、細心の注意をすることが必要です。

10. セメスター制

理工学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制というのは、半年を1学期とするもので、1学年を原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4年次までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら年次、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目が配当されています。これらの科目の中からの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目ですから、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、本来そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

11. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次に願い出た者に限り、出身大学で修得した科目を、本学理工学部の科目として認定することがあります。詳細は、入学後すみやかに、理工学部教務課窓口に申し出てください。

Ⅲ 履 修 登 録

履修登録は、自らの学習計画に従ってその年度・学期（セメスター）に履修しようとする授業科目を届け出る手続であり、みなさんの学習計画の出発点となるものです。この登録をしていなければ、たとえ授業に出席しても、試験を受けることや単位の認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自分の責任において取り組まなければなりません。

1. 履修登録手続のスケジュール

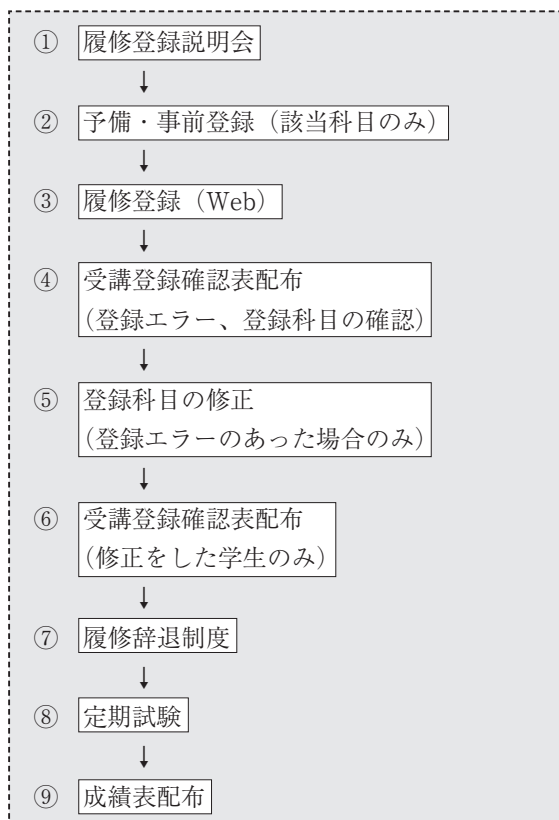
1～3年次生は、履修登録が前期・後期の年2回行われます。ただし、4年次生については、卒業見込判定の関係から、前期に1年分の履修登録を行います。

1～3年次生	年2回登録	前期：通年・前期科目登録
		後期：後期科目登録
卒年次生	年1回登録	前期：通年・前期・後期科目登録
		後期：後期科目の変更のみ受付

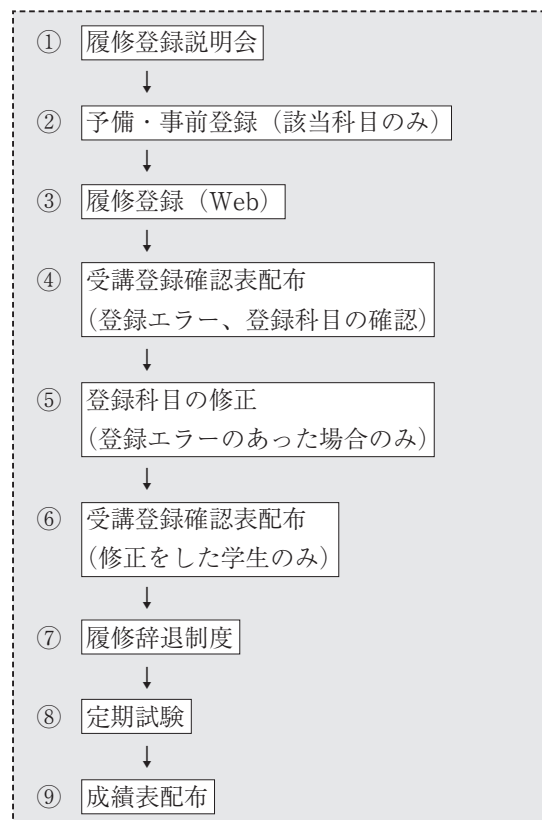
履修登録に関する手続きのスケジュールは以下の通りです。

〈1～3年次生〉

前期



後期

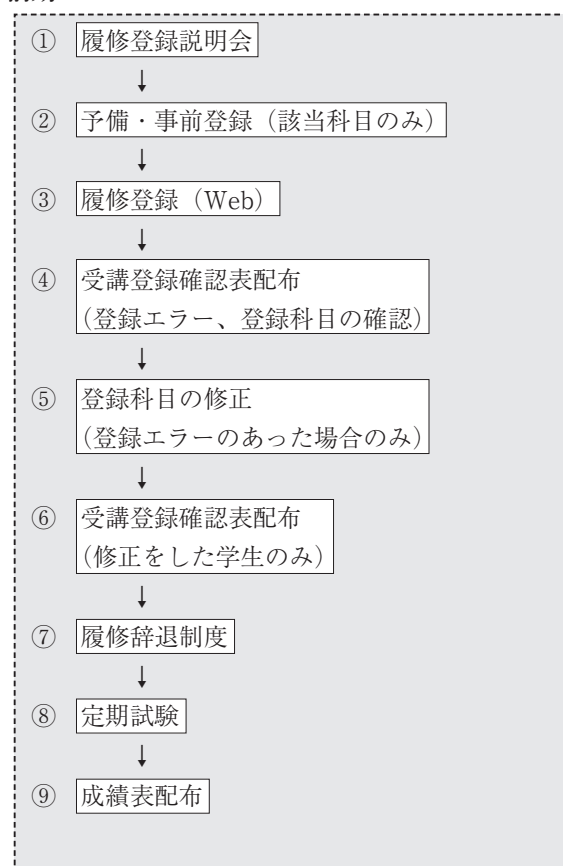


⚠ 注意事項

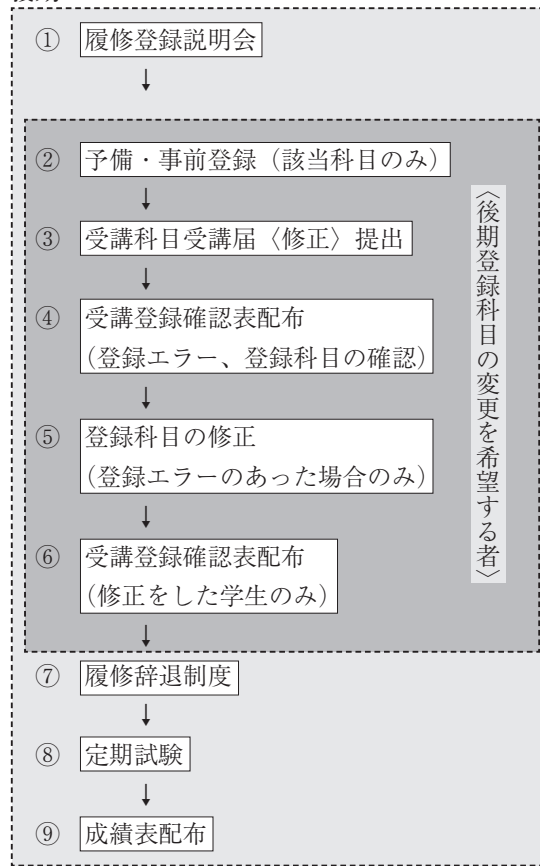
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

〈卒業年次生〉

前期



後期



⚠ 注意事項

- 前期登録時は、卒業見込判定の関係から、その年度に履修しようとする全科目を登録してください。
- 後期登録時は、後期科目について変更・追加・取消を希望する場合のみ登録を行ってください。
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

2. 履修登録に際しての注意事項

① 単位の修得

履修登録した科目でなければ、受講、受験、単位の修得はできません。

② 二重登録の禁止

同一時間帯に2科目以上履修登録することはできません。二重登録した場合、該当科目は全て無効となりますので注意してください。

③ 修得済み科目の登録禁止

既に単位を修得した科目を再び履修登録することはできません。

④ 登録制限単位数

制限単位以上の科目を履修登録することはできません。ただし、随意科目（諸課程科目など）は制限単位に含まれません。

⑤ 履修配当年次

現年次より上の年次に配当されている科目を履修登録することはできません。（留年生に対する特別措置は除く）

⑥ クラス、学科指定

学科や学籍番号によってクラスあるいは学科が指定される科目（英語、スポーツ技術学、仏教の思想等）があるので注意して登録してください。Web登録画面にて確認して下さい。

⑦ 登録科目の追加、変更の禁止

登録日以後の科目の変更、追加、修正は認めません。ただし、履修不可能科目の登録によるエラーがあった場合はこの限りではありません。（履修辞退制度による登録取消は除く）

⚠ 注意事項

- ① 必修科目が配当されている学年にあつては、その年次において登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外の授業科目は登録できません。ただし、授業科目の区分等の関係で、卒業要件を充たすに必要な場合は、下級年次配当の授業科目を登録することができます。
- ③ 授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）

3. 履修登録制限

理工学部では、下記のとおり履修登録制限をしています。ここに定める単位数を超えて履修登録することは一切認められないので、よく考えて履修計画を立てる必要があります。

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	30	30	30	60
後期制限単位数	30	30	30	

⚠ 注意事項

- ① 制限単位を計算する際、通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれに単位数の半分ずつをカウントします。
 (例) 4単位の通年科目を登録すると、前期・後期にそれぞれ2単位ずつ加算されます。
- ② 諸課程科目（教職課程科目・本願寺派教師資格課程）などの随意科目は制限単位に含みません。
- ③ 集中講義期間に実施される以下の科目は履修制限単位数に含みません。（2010年度）

情報と職業／MOT概論／特別講義（機械システム工学科）

- ④ 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度科目は履修制限単位数に含みません。

4. 予備登録

予備登録とは、定員が定められている科目について、受講者数の調整およびクラス分けのため、通常の履修登録に先立って行われるものです。

予備登録にあたっては、以下の点に注意する必要があります。

予備登録が必要な科目は、別途指示します。

- ① 予備登録が必要な科目は、予備登録なしに履修することはできません。（ただし、予備登録の結果、定員に満たなかった場合は追加募集する場合があります。）
- ② 予備登録で履修許可された科目は、必ず登録しなければなりません。

5. 履修登録要領

(1) 登録の心得

- ① 登録は、すべて自己の責任においてなされなければならないので、十分に注意して履修登録を行っ

てください。なお、登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。

- ② 登録不備等が卒業延期等重大な結果につながる場合があるので必ず登録確認を行ってください。
 - ③ 時間割、教室、担当者等について変更が生じる場合があるので、随時理工学部掲示板とポータルで確認してください。
- (2) **履修登録にあたって注意すべき点**

- ① 授業時間割等に変更が生じた場合は、理工学部掲示板に掲示しますので注意してください。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。

登録期間は次のとおりです。

学 期	登録期間
第1学期	4月8日(木) 9:00～26:00
	4月9日(金) 7:00～26:00
	4月10日(土) 7:00～26:00
	4月11日(日) 7:00～26:00
	4月12日(月) 7:00～26:00
	4月13日(火) 7:00～16:00
第2学期	未定(理工学部掲示板・HPで別途お知らせします。)

⚠ 注意事項

- * 通年科目、前期・後期のペア科目の単位数は、前期・後期にそれぞれ半分ずつカウントされます。
- * 半期に完結するペア科目(半期で1週間に2回講義が行われる科目)の単位数は、半期にカウントされます。
(例) 前期ペアで4単位の科目の場合は、前期に4単位を加算します。
(例) 前・後期ペアで4単位の科目、通年で4単位の科目の場合は、前・後期それぞれに2単位ずつ加算します。
- * 集中講義Ⅱの期間に実施される科目は、9月卒業を希望する者は受講できません。

- ④ 受講登録確認表の配布
本人が登録した授業科目は、コンピューター処理され、その結果が4月下旬(第2学期は10月中旬)に理工学部教務課窓口で配布されますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問のある場合は、だちに、理工学部教務課窓口へ申し出てください。

6. 履修登録の確認

授業科目が正確に登録されているかは、自己の責任において、配布する**受講登録確認表**で必ず確認してください。(配布日時は理工学部掲示板にて指示)

もし、確認せずに間違ったまま登録を放置しておくと、受講している科目が無効となり、試験が受けられなくなるので注意してください。

登録確認を怠ったために、登録不備等により留年や卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じているので、確認は1科目ずつ慎重に行ってください。

万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間に理工学部教務課まで申し出てください。(日時は理工学部掲示板にて指示)

Ⅳ 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1または2以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、授業担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（既得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

適用入学年度	段階評価と評点
2004年度以前入学生	A (80～100点) B (70点～79点) C (60～69点)
2005年度以降入学生	S (90～100点) A (80～89点) B (70～79点) C (60～69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

※2004年度まで使用していた試験欠席を示す「K」表記は、2005年度より廃止しました。（全学生に適用）。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期分（後期）を3月下旬に配布します。指定された期日に学生証を提示の上、指定された場所で受け取ってください。

3. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口へ提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。詳細は別途掲示します。

4. 平均点とGPA

(1) 平均点

平均点は、登録科目の素点（100点満点）の合計と単位数をかけたものを、登録科目の総単位数で割ったものです。

$$\text{平均点} = \frac{\sum (\text{登録科目の素点} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語 I A」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学 I」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、平均点は次のように計算されます。

$$\text{平均点} = \frac{(90 \times 2) + (80 \times 1) + (40 \times 2) + (78 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{496}{7} = 70.86$$

(2) GPA

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、登録科目の素点（100点満点）を下表のように換算し直し、その合計を登録科目の総単位数で割ったものです。

$$\text{GPA} = \frac{\sum (\text{登録科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

素点	グレードポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語 I A」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学 I」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times 2) + (3 \times 1) + (0 \times 2) + (2 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{15}{7} = 2.14$$

(3) 各科目の算入基準

平均点およびGPAの計算をする際、下表のとおり取り扱います。

科目の区分	取り扱い
卒業要件となる科目 (2005年度以降入学生については、卒業要件上、余剰分となる科目も含む)	算入する
随意科目	算入しない
再履修により合格した場合、当初履修し不合格となった科目	算入しない

*再履修で不合格の場合は、高得点の方を算入します。

理工学部としては平均点を使用することとし、GPAは参考までに学業成績表に表記することとします。

V 筆 答 試 験

筆答試験は、次の要領で実施されます。

1. 試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

- ① **定期試験**（学期末・学年末試験）
個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験をいう。
- ② **追試験**
定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう。（追試験の項を参照のこと。）

2. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- ① その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- ② 定められた学費を納入していること。
- ③ 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- ④ 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

3. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- ① 指定された試験場で受験すること。
- ② 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- ③ 学生証を携帯すること。
- ④ 学生証を必ず机上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には、理工学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- ⑤ 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- ⑥ 参照を許可されたもの以外は、指示された場所に置くこと。
- ⑦ 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、鞆の中に入れること。
- ⑧ 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

4. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- ① 無記名の場合。
- ② 指定された場所に提出しない場合。
- ③ 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
- ④ 同一科目の複数開講において、開講曜講時等の間違いで受験したもの。
- ⑤ 試験場間違いで受験したもの。
- ⑥ 受験態度の不良な場合。

5. 筆記試験における不正行為

- ① 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- ② 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - (ア) 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
 - (イ) 監督者の指示に従わない場合。
 - (ウ) 身代り受験を行った場合、または行わせた場合。
 - (エ) カンニングペーパー等を所持していた場合。
 - (オ) 許可された以外のものを参照した場合。
 - (カ) 机上等への書き込みをしていた場合。
 - (キ) 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
 - (ク) 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
 - (ケ) その他、(ア)～(ク)に準じる行為を行なった場合。

6. 追試験

- ① 追試験の受験資格
 - (ア) 病気や怪我、試験時における体調不良等により受験ができなかった者。
 - (イ) 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
 - (ウ) 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
 - (エ) 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
 - (オ) 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学コンソーシアム科目）の試験により受験ができなかった者。
 - (カ) 3年次生で単位認定の対象となるインターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
 - (キ) 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
 - (ク) 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
 - (ケ) 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
 - (コ) その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

ただし、その際、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含まない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内。）に理工学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

- ② 追試験の受験料は、1科目1,000円です。
- ③ 実技、実験・実習科目（例えば、「スポーツ技術学」）、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。
- ④ 追試験における評点は、最高100点です。

7. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験14日前に掲示およびポータルにより発表します。
試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時間	終了時間	
		右記以外の全科目 (60分)	理工学部固有科目 (学部内共通科目) (学科固有科目) (90分)
1講時	9:20	10:20	10:50
2講時	11:10	12:10	12:40
3講時	13:30	14:30	15:00
4講時	15:20	16:20	16:50
5講時	17:10	18:10	18:40

※2、4、5講時は通常の講義時間と異なるので注意すること。

8. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複製したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

参考 レポート提出要領

① レポートの提出方法

- (ア) レポートは授業担当者の指示に従って提出すること。
- (イ) レポートは指示されたところに提出し、郵送の場合は宛名を確認の上、必ず「書留」で発送すること。
- (ウ) 授業担当者に直接提出するように指示のあるものについて、事故を防ぐため事情のいかんを問わず、理工学部教務課窓口では一切取り扱わない。
- (エ) 提出期限は厳守すること。（期限を経過したものは受理しない。）
- (オ) その他、指示に従わない場合は無効となる。

② レポートの提出形式

用紙・規格等は次のとおりとする。

用紙種別	字数	大きさ	書き方	綴じ方	綴じ位置
龍大論文用紙	400字	B4判	縦書き	右側	A
龍大原稿用紙	400字	B4判	横書き	上側	B
レポート用紙		A4判	横書き	左側	C

- 必ずホッチキスで綴じること。
- 表紙の書き方、綴じ方は下図のとおり。（但し、担当者より別途指示がある場合は、指示に従うこと。）

(B)

表紙記入・綴じ方法

(C)

(A)

テーマ	
学部	学科
年 組	学籍番号
氏 名	
提出日	

学 科	
担 当	教授
開講時間	曜日 講時

Ⅵ 教育支援

理工学部には、学修に関することから学生生活まで、さまざまなサポート体制があります。ここでそのいくつかを紹介しますので、積極的に利用してください。

1. 学科の委員

理工学部では、学科毎に教員が諸委員を担当して、学科の運営にあたっています。以下に、みなさんに関わりの大きい委員を紹介しますので、それぞれに関わる事について、なんでも相談してください。（各委員は1年毎に変更されます。担当教員は掲示します。）

担 当	担 当 内 容
学 科 主 任	総合的に学科の運営を担当します。
教 務 委 員	学科の授業運営を担当します。 時間割の作成や履修説明会なども行います。2名の教員が担当します。
学 生 生 活 委 員	学修以外の学生生活について、学生部と連携して担当します。
就 職 担 当 委 員	就職活動について、キャリア開発部と連携して担当します。2名の教員が担当します。
学外実習実施委員	3年次科目「学外実習」の運営を担当します。

2. クラス担任制

入学してから各研究室に配属されるまで、全学生に対してクラス担任を配置します。どんなことでも気軽に相談してください。新入生オリエンテーションでのクラス会をはじめとして、食事会を実施するクラスもあります。また、学科全体が1クラスのような雰囲気、学科全体の懇親会なども開かれます。

3. 教員との面談

理工学部の専任教員との面談は、各自で行うようにしてください。また、在室時間は、各研究室のドアのスケジュールシートを参考にしてください。

学科によっては、学科のHPに各教員のスケジュール表が示されています。

他学部の教員との面談も、各自で行うようにしてください。研究室の所在や出校日などは理工学部教務課窓口で問い合わせてください。

非常勤の教員は、担当授業の曜講時以外は出校しておられませんので、できるだけ、授業の際に直接申し出てください。

教員によっては、オフィスアワーを実施している場合がありますので、そちらも利用してください。

4. T.A.制度

ほとんどの実験・実習科目に、大学院生などによるT.A. (Teaching Assistant) を配置し、教員と連携して、少人数による双方向・対話型のきめ細かな指導を行っています。

5. チューター制度

授業で十分に理解できなかった内容や、高校までの基礎的な内容など、学修に対する相談に大学院生などが個別に対応してくれます。チューターには、決められた時間・場所で待機している常駐型のチュータールームと、個人指導の個別型があります。チュータールームの実施日時は掲示板・HPでお知らせします。個別型については、教務委員に相談してください。

6. L.A.制度

計算機実習室での自習をサポートするために、学生によるL.A. (Learning Assistant) を配置しています。

7. ライティングセンター

当センターは、学生のみなさんにおけるアカデミックライティングの技術を向上させるための機関です。具体的には、卒業論文・卒業研究、レポート、ゼミ発表などに関する相談を受けつけます。何かからはじめればいいのかわからないときや行き詰まったときなど、下記の開室期間を参照のうえ、自由に利用してください。相談には、本学所属の大学院生など、みなさんの先輩にあたるチューターが応じますので、本学に合った的確なアドバイスが受けられます。

◆場 所 1号館1階 セルフラーニングルーム（講師控室のとなり）

◆開室日時 月・水・金 11：00～16：00（授業実施期間中）

8. その他

カウンセリングを行う学生相談室や、セクシュアル・ハラスメントに関する相談員も配置しています。

各相談窓口がわからない場合は、理工学部教務課窓口へ問い合わせてください。

教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標

理工学部は、日本の仏教系大学では初めての自然科学系学部で、情報化と国際化が著しい現代において、**科学と人間の調和**を最も重視し、技術の高度化のみならず精神文化の豊かさに対し貢献できる科学技術者の育成を教学の理念としています。

20世紀において科学技術は大きな発展を遂げ、われわれの生活に多大の貢献をしてきましたが、同時に環境に対して大きな負荷を与え、また精神文化や倫理にも少なからず影響を与えてきました。特に、科学技術に携わる人材の倫理観の欠如は、大きな社会的問題を引き起こしています。本学設立の基礎である仏教の思想と高い倫理性を基礎におき、最新の科学技術の高度な専門知識を備え、21世紀の社会に大いに貢献できる有為な人材を育てることこそ本学理工学部に与えられた使命であり、存在価値であります。

自然を学ぶことから出発した**理学**と、人間生活の向上に資することを目的とした**工学**とは引き離すことのできない自然科学の2大分野であり、共に急速に発展しています。これら最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、若い世代に教育していくことによって、時代の要請にかなない先端技術の発展に寄与し得る人材を育成することを理工学部の目標としています。このため、基礎から応用までバランスがとれ、科学全体を総合した教育課程を構成しています。

教養教育科目（共同開講科目）

人間性を高めるため、入学初年度に**仏教の思想**を必須科目として設定しています。また、他学部との共同開講である**教養科目**や**スポーツ科学**の受講を義務付け、科学偏重や視野の狭い技術者にならないような配慮をしています。また、国際化に対応して系統的な**英語教育**を実施し、その他の外国語の履修の機会や**倫理教育科目**を設定しています。

固有科目

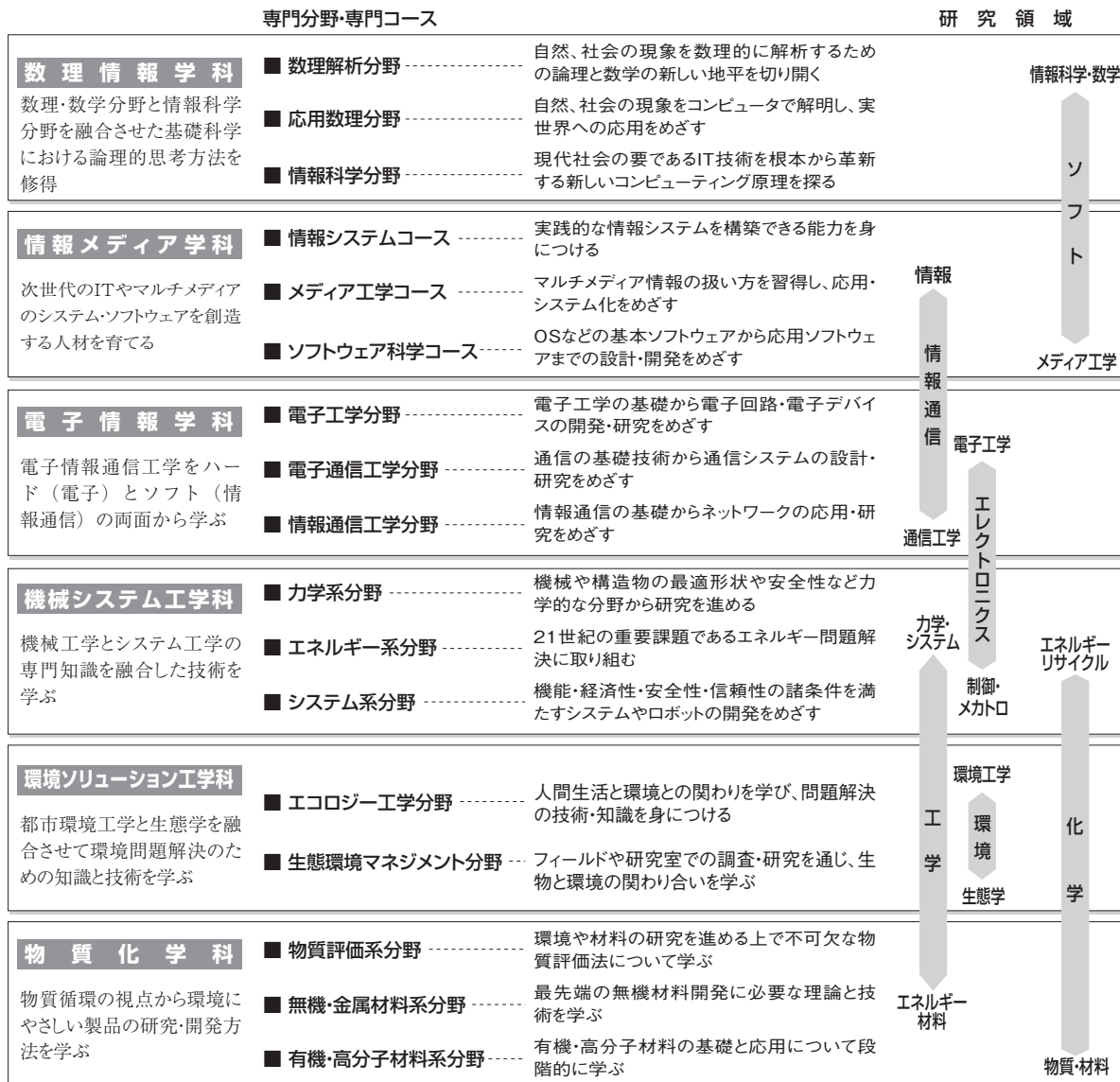
<学部内共通科目>

学部共通の基礎教育として、実践力のある技術者・研究者としての基礎を確立するために、情報リテラシー教育を含むコンピュータ関連科目を基礎から応用まで段階的に用意して、専門的な計算機実習、理工学基礎実験（物理実験）、学外実習や総合実習・特別演習を学部内共通の必修または選択必修科目とし、**基礎技術**の強化を行っています。

<学科固有科目>

専門科目については、各学科の特性に合わせたカリキュラムが編成されています。現代の自然科学を代表するキーワードは、「**情報**」「**システム**」「**エネルギー**」「**材料・物質**」「**環境**」です。これらを軸として、**数理情報学科**では数理科学と情報科学が、**情報メディア学科**では情報科学とメディア工学が、**電子情報学科**では電子工学と情報通信工学が、**機械システム工学科**では機械工学とシステム工学が、**環境ソリューション工学科**では都市環境工学と生態学が、**物質化学科**では材料・物質と化学が、それぞれ組み合わせられた専門課程のカリキュラムが編成されています。さらに、個々の科目の内容を統合し応用する力を育てるために、**卒業研究**を高単位の必修科目とし、極めて重要視しています。なお、科目選択の幅を広げるため、制限内で他学科の科目の履修も認めています。

学科構成図



科学技術は日進月歩であり、社会が求める人材も変化して行きます。一旦設定した教育内容も時代の要請に応じて変化させていかなければなりません。理工学部が設立当時より継続している**学外実習**は、学生を企業に派遣し実習を行わせるものですが、学生自身が実社会において使われている最先端技術を知り、勉学の必要性を実感すると共に、社会が求めている人材や備えるべき知識についての情報を企業等から直接得る良い機会となります。また、企業との**共同研究**から得られる情報も大切です。これらの情報を基に、学生に付与すべき知識を見直しカリキュラムに反映していくことで、常に社会のニーズに即した教育内容となり、実践力をもつ人材を育てることができます。

同時にキャリア教育にも積極的に取り組み、将来に対する意識の啓発等のために「キャリアデザイン」と「キャリアプランニング」を開講しています。

幼少時代から科学技術に関する興味を持たせ、科学者の芽を育てていくことも大切です。理工学部では教職につく人材の育成にも努力しています。学科によって中学校教諭一種免許（数学・理科）、および高等学校教諭一種免許（数学、情報、工業、理科）を取得することができます。

Ⅱ 物質化学科の教学理念と教育目標

物質化学科では「グリーンケミストリー21」を合言葉に、地球環境を視野に入れた化学の基礎および専門知識を修得し、それを応用できる力が養えるようにカリキュラムが設定されている。カリキュラムが全て修了したときに身につく学習・教育目標を以下のように設定している。

【学習・教育目標】

- (A)生物・無生物を問わず、宇宙にある“もの”は全て平等であるとの考えに基づき、エネルギーや資源を利用する人間の視点に執着することなく、地球上における“もの”の共生や循環の考え方を身につける。**(共生・循環)**
- (B)共生や循環の発想に基づき、環境にやさしい工業製品の製造・開発をはじめとする「グリーンケミストリー」の考え方や手法を身につける。**(グリーンケミストリー)**
- (B1) 科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響についての基礎知識を身につける。
- (B2) 環境に配慮しながら化学の知識を“ものづくり”に応用する知識・能力を身につける。
- (C)物質化学の知識・能力を「何のために、どのように使うか」を判断するための高い倫理観と健全な常識を身につける。**(技術者倫理)**
- (C1) 社会科学や人文科学などの素養に基づく健全な常識を身につける
- (C2) 科学技術者として社会から求められる基本的な倫理観を身につける
- (D)数学、物理学、物理化学、無機化学、有機化学を含む科学的基礎知識をバランスよく学習し、これらの普遍的真理に基づいた論理的思考・柔軟な発想を身につける。**(化学の基礎)**
- (D1) 数学、物理学、情報技術などに関する基本的な知識・能力を身につける
- (D2) 物理化学、無機化学、有機化学の基礎知識をバランスよく身につける
- (D3) 総合的・多面的な基礎知識に基づき、論理的で柔軟な発想力を身につける
- (E)物質化学の主要な分野である「物質評価」、「無機・金属」、「有機・高分子」のうち、いずれか一つの分野において高度な専門知識と応用能力を身につける。**(化学の応用)**
- (E1) 最低一つの専門分野において、高度な専門知識を身につける。
上記の専門知識を、それ以外の周辺分野の基礎知識と総合して、問題解決に応用する能力を身につける。
- (E2) 未知の問題に対して、それを解決に導くための具体的な手順を立案する能力を身につける。
- (E3) 上記の専門知識を、時代の進歩に即して自主的に更新する姿勢を身につける。
- (F)自分の意見を正確に相手に伝えると同時に、相手の意見を充分聞き、尊重するために必要な考え方および国際的に通用するコミュニケーション基礎技術を習得する。ディスカッションを通じて叡智を集約することにより新しい構想をまとめ上げる能力を身につける。**(国際的コミュニケーション力)**
- (F1) 日本語による論理的な記述力、口頭発表能力、ディスカッション能力を身につける。
- (F2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (F3) チームワークにより、与えられた条件の下で構想をまとめ上げる能力を身につける

これらの目標を達成するため次ページの表に示すような科目群が系統的に配置されている。また各学習・教育目標の達成度は各教科群の成績によって評価される。

実際に物質化学科の学生が履修する科目は<共同開講科目>、<学部内共通科目>、<学科固有科目>に

分類される。後に掲載しているカリキュラムフローチャートには<学科固有科目>を中心に、物質化学科のカリキュラムを簡潔に図示してある。この図ではカリキュラムの理解を助けるために、設置科目を5つのフロー（流れ）に沿って設置してある。まずフローⅠ（理工学基礎）とフローⅢ（物質化学の基礎と応用）に示す科目群で物質化学の基礎知識を修得し、順次より専門的な講義科目と演習・実験科目を履修する。最先端の材料開発や物質評価法を学ぶのはもちろんのことであるが、物質化学を勉強する上で地球環境に関する知識が不可欠である。このため、本学科では<グリーンケミストリー>（環境にやさしい化学）に関する科目を1年次から3年次まで連続して設置してある（フローⅡ）。4年次では、それまでに学んできた知識を総合的に活かして、最先端の研究テーマに取り組む。そして、1年間にわたり創意工夫して得られた研究成果を卒業論文にまとめ、成果発表を行う。

履修単位に関する具体的条件等は「設置科目」、「卒業・進級の要件」に表としてまとめてあるので注意事項も含めて熟読し、履修計画をたてること。

表 各学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ【2007年度以降入学生】

学習・教育目標		授業科目名								
		1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(A) 共生・循環	必修	仏教の思想A 環境科学	仏教の思想B						特別研究	特別研究
	選必									
	選択	共通科目	共通科目	生態学概論	地球環境概論 共通科目					
(B) グリーンケミストリー	B1	必修	環境科学	資源エネルギー論						
		選必			環境化学					
		選択	共通科目	共通科目	共通科目 生態学概論	共通科目 地球環境概論				
	B2	必修	物質化学総論						特別研究	特別研究
		選必				グリーンプロセス工学	化学リスク学	エネルギー循環工学		
		選択					工業化学	工業法規		
(C) 技術者倫理	C1	必修	仏教の思想A スポーツ技術学A	仏教の思想B スポーツ技術学B			学外実習			
		選必	キャリアデザイン 共通科目	共通科目	共通科目 キャリアプランニング	共通科目				
		選択	物質化学総論 環境科学	資源エネルギー論			学外実習		特別研究	特別研究
	C2	選必			環境化学		化学リスク学	エネルギー循環工学		
		選択	入門セミナー	知的財産概論	情報と職業 MOT概論 情報倫理	科学思想史 工業経済 MOT演習		工業法規		
(D) 化学の基礎	D1	必修	計算機基礎実習I 数学I・演習 物理学I・演習	数学II・演習 物理学II・演習	数学III・演習 化学工学概論 物理学III・演習		化学英語演習			
		選択	地学概論I	地学概論II 自然観察実習	生物学概論I 情報学概論 工学概論 生体情報概論	化学数学 計算機基礎実習II 生物学概論II 人間工学 物理学IV・演習	電磁気学	特別講義		
	D2	必修	分析化学 無機化学I・演習 有機化学I・演習	物理化学I・演習 無機化学II・演習 有機化学II・演習	物理化学II・演習 無機化学III 有機化学III 高分子化学	物理化学III 物理化学IV 無機化学IV 有機化学IV				
		選必			環境化学					
		選択	化学概論I			高分子プロセス化学	量子化学 生化学 工業化学	工業法規		
	D3	必修	物質化学総論	化学基礎実験	物理実験	物理化学実験	学外実習 無機合成化学実験 有機合成化学実験	機器分析化学実験 物質化学研究 デザイン演習	特別研究	特別研究
		選択	地学実験					生物学実験		

学習・教育目標		授業科目名							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(E) 化学の応用	必修						科学技術英語 物質化学研究 デザイン演習	英語セミナー 特別研究	特別研究
	選必修				グリーンプロセス工学	化学リスク学	エネルギー循環工学		
	E1 選択					工業化学 機器分析化学 結晶材料工学 セラミック材料工学 有機構造解析	分子設計化学 構造解析学 ナノ材料工学 機能材料工学 有機材料化学 高分子材料化学		
	E2 必修					無機合成化学実験 学外実習	物質化学研究 デザイン演習	特別研究	特別研究
	E3 必修							特別研究	特別研究
(F) コミュニケーション能力	F1 必修		化学基礎実験	物理実験	物理化学実験	学外実習 有機合成化学実験	機器分析化学実験 物質化学研究 デザイン演習	英語セミナー	
	F1 選択	地学実験 入門セミナー キャリアデザイン	自然観察実習			プレゼンテーション演習	生物学実験		
	F2 必修	英語ⅠA 英語ⅠB	英語ⅡA 英語ⅡB	英語Ⅲ	英語Ⅳ	化学英語演習	科学技術英語	英語セミナー	
	F2 選択	共通科目	共通科目	共通科目	共通科目				
	F3 必修					学外実習		特別研究	特別研究
F3 選択	入門セミナー								

⚠ 注意事項

- 1) 授業科目名で、太字のものは、それぞれの学習・教育目標を主体的に含んでいる科目、その他は付随的に含んでいる科目。
- 2) 共通科目については、必修科目を除き科目名を省略した。
- 3) 下線つきは随意科目であり、卒業要件単位には含まれない。

表 各学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ【2004年度～2006年度入学生】

学習・教育目標		授業科目名									
		1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
(A) 共生・循環	必修	仏教の思想A 環境科学	仏教の思想B						特別研究	特別研究	
	選必				物質循環工学 資源工学		環境生態学				
	選択	共通科目	共通科目	生態学概論	地球環境概論						
(B) グリーンケミストリー	B1	必修	環境科学	資源エネルギー論	環境化学						
		選必				物質循環工学 資源工学		環境生態学			
		選択	共通科目	共通科目	共通科目 生態学概論	共通科目 地球環境概論					
	B2	必修	物質化学総論							特別研究	特別研究
		選必					化学リスク学 エネルギー循環工学	グリーンプロセス工学			
		選択					工業化学	工業法規			
(C) 技術者倫理	C1	必修	仏教の思想A スポーツ技術学A	仏教の思想B スポーツ技術学B				学外実習			
		選必	共通科目 キャリアデザイン	共通科目	共通科目 キャリアプランニング	共通科目					
		選択	物質化学総論 環境科学	資源エネルギー論	環境化学			学外実習		特別研究	特別研究
	C2	選必				物質循環工学 資源工学	化学リスク学 エネルギー循環工学				
		選択	入門セミナー	知的財産概論	情報と職業 MOT概論	科学思想史 工業経済 MOT演習		工業法規			
(D) 化学の基礎	D1	必修	計算機基礎実習I	数学I 物理学I	数学II 物理学II 化学工業概論		化学英語演習				
		選択	地学概論I 数学序論 物理学序論	地学概論II 生物多様性実習B	生物学概論I 情報学概論 工学概論 生体情報概論	数学III 物理学III 計算機基礎実習II 生物学概論II 人間工学			特別講義		
	D2	必修	分析化学 無機化学I 有機化学I	物理化学I 無機化学II 有機化学II	物理化学II 有機化学III 高分子化学 環境化学	物理化学III 固体化学					
		選必									
		選択	化学概論I		電子化学		量子化学 無機プロセス化学 生化学 工業化学 高分子合成化学	工業法規			
	D3	必修	物質化学総論	理工学基礎実験B	理工学基礎実験A	物理化学実験	学外実習 無機合成化学実験 有機合成化学実験	機器分析化学実験 物質化学研究 デザイン演習	特別研究	特別研究	
		選択	地学実験					生物学実験			

学習・教育目標		授業科目名							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(E) 化学の応用	必修						科学技術英語 物質化学研究 デザイン演習	英語セミナー 特別研究	特別研究
	選必修				物質循環工学 資源工学	化学リスク学 エネルギー循環工学	環境生態学 グリーンプロセス工学		
	E1 選択			セラミック材料工学	有機機器分析化学	工業化学 無機機器分析化学 環境分析化学 結晶材料工学	有機・高分子化学演習 分子設計化学 構造解析学 ナノ材料工学 機能材料工学 高分子物性 有機材料化学	無機・物理化学演習	
	E2 必修					無機合成化学実験 学外実習	物質化学研究 デザイン演習	特別研究	特別研究
	E3 必修							特別研究	特別研究
(F) コミュニケーション能力	F1 必修		理工学基礎実験B	理工学基礎実験A	物理化学実験	学外実習 有機合成化学実験	機器分析化学実験 物質化学研究 デザイン演習	セミナー	
	F1 選択	地学実験 入門セミナー	生物多様性実習B			プレゼンテーション演習	生物学実験		
	F2 必修	英語ⅠA 英語ⅠB	英語ⅡA 英語ⅡB	英語Ⅲ	英語Ⅳ	化学英語演習	科学技術英語	セミナー	
	F2 選択	共通科目	共通科目	共通科目	共通科目				
	F3 必修					学外実習		特別研究	特別研究
F3 選択	入門セミナー								

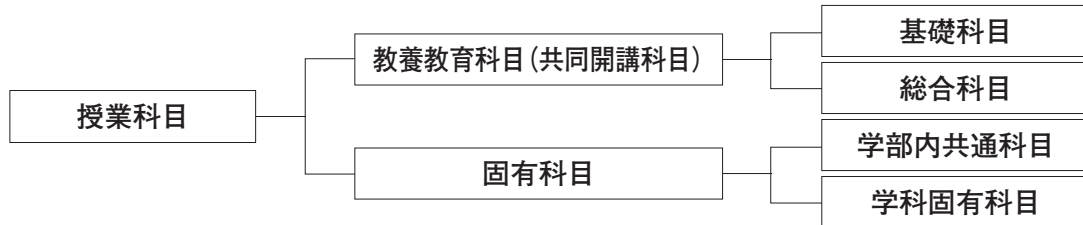
⚠ 注意事項

- 1) 授業科目名で、太字のものは、それぞれの学習・教育目標を主体的に含んでいる科目、その他は付随的に含んでいる科目。
- 2) 共通科目については、必修科目を除き科目名を省略した。
- 3) 下線つきは随意科目であり、卒業要件単位には含まれない。

III 教育課程の編成・履修方法

1. 授業科目の区分

理工学部の教育課程（カリキュラム）の編成は、「教養教育科目（共同開講科目）」「固有科目」から編成され、さらに、教養教育科目（共同開講科目）は「基礎科目」「総合科目」、固有科目は「学部内共通科目」「学科固有科目」で編成されます。これらの分類のことを授業科目の区分といいます。



(1) 教養教育科目（共同開講科目）

教養教育科目（共同開講科目）は、固有科目との有機的な結びつきのもとに、幅広い教養と総合的判断力を養うことを目的とし、基礎科目、総合科目から構成されています。瀬田学舎の3学部が共同して開講します。

(2) 固有科目

固有科目は、専門領域に関する授業科目であり、理工学部共通の基礎教育を行う学部内共通科目と、各学科専門分野の基礎および応用を教育する学科固有科目に分類されます。

2. 必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目

すべての授業科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目のいずれかに指定されています。

(1) 必修科目

卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

(2) 選択必修科目

指定された科目群の中から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

(3) 選択科目

どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があるため、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

(4) 随意科目

単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」のような序論科目や、各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

3. 各科目の履修方法について

(1) 教養教育科目（共同開講科目）についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2008年度以降入学生	P29～P33
2003～2007年度入学生	P34～P37

(2) 固有科目についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2007年度以降入学生	P42～P47
2004～2006年度入学生	P48～P53
2000～2003年度入学生	P54～P59

①教養教育科目の履修方法 【2008年度以降入学生】

教養教育とは

(1) 教養教育の目的と意義

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、瀬田学舎では、基礎科目（6分野）と総合科目（「情報」「福祉」「国際」「環境」をキーワードとする）にわけて、学際的・系統的履修を可能にしています。

■基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1. 必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
外国語	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位
スポーツ	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位

(1) 仏教の思想の履修について

「仏教の思想A・B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(2) スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A、B（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(3) 英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため伝統的に大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育に対する正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

<習熟度別クラス編成について>

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

<科目概要>

英語ⅠA・ⅠB	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡA・ⅡB	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「スポーツ技術学A・B」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
- (2) 「英語（再）」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
- (3) 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」の各科目は、予備登録が必要となります。
- (4) 「英語セミナー」の各科目は、予備登録が必要となります。

4. 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

<先修制授業科目>

- ① ドイツ語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「ドイツ語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ② フランス語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「フランス語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ③ 中国語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「中国語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ④ コリア語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「コリア語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

<英語以外の外国語概要>

ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語 I A・I B	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語 I C・I D	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語セミナーA、セミナーB	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5. 予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「自然観察法」は、予備登録が必要となります。

設置科目 [2008年度以降入学生]

■基礎科目

科目名	単位数	配当年次			
		1年次		2年次	
		前	後	前	後
仏教の思想A	必修 2	○			
仏教の思想B	必修 2		○		
スポーツ技術学A	必修 1	○			
スポーツ技術学B	必修 1		○		
英語ⅠA	必修 1	○			
英語ⅠB	必修 1	○			
英語ⅡA	必修 1		○		
英語ⅡB	必修 1		○		
英語Ⅲ	必修 1			○	
英語Ⅳ	必修 1				○
英語セミナーA1	選択 2	○			
英語セミナーA2	選択 2		○		
英語セミナーB1	選択 2			○	
英語セミナーB2	選択 2				○
英語セミナーC1	選択 2			○	
英語セミナーC2	選択 2				○
英語セミナーD1	選択 2			○	
英語セミナーD2	選択 2				○
英語セミナーE1	選択 2			○	
英語セミナーE2	選択 2				○
英語セミナーF1	選択 2			○	
英語セミナーF2	選択 2				○
ドイツ語ⅠA	選択 1	○			
ドイツ語ⅠB	選択 1		○		
ドイツ語ⅠC	選択 1	○			
ドイツ語ⅠD	選択 1		○		
ドイツ語セミナーA	選択 2			○	
ドイツ語セミナーB	選択 2				○
フランス語ⅠA	選択 1	○			
フランス語ⅠB	選択 1		○		
フランス語ⅠC	選択 1	○			
フランス語ⅠD	選択 1		○		
フランス語セミナーA	選択 2			○	
フランス語セミナーB	選択 2				○
中国語ⅠA	選択 1	○			
中国語ⅠB	選択 1		○		
中国語ⅠC	選択 1	○			
中国語ⅠD	選択 1		○		
中国語セミナーA	選択 2			○	
中国語セミナーB	選択 2				○

科目名	単位数	配当年次			
		1年次		2年次	
		前	後	前	後
コリア語ⅠA	選択 1	○			
コリア語ⅠB	選択 1		○		
コリア語ⅠC	選択 1	○			
コリア語ⅠD	選択 1		○		
コリア語セミナーA	選択 2			○	
コリア語セミナーB	選択 2				○
文学入門	選択 2	○	○		
哲学入門	選択 2	○	○		
心理学入門	選択 2	○	○		
教育原論A	選択 2	○			
教育原論B	選択 2		○		
発達と教育A	選択 2			○	
発達と教育B	選択 2				○
歴史入門	選択 2			○	○
倫理学入門	選択 2	○	○		
言語学入門	選択 2	○			
論理学入門	選択 2	○	○		
法学入門	選択 2	○			
日本国憲法	選択 2	○	○		
政治学入門	選択 2	○	○		
統計入門	選択 2		○		
社会学入門	選択 2	○	○		
経済学入門	選択 2	○	○		
社会思想史入門	選択 2			○	○
★生活の中の数学	選択 2	○			
★生活の中の物理	選択 2		○		
※★生活の中の化学	選択 2		○		
★生命と科学	選択 2			○	
★生活の中の統計技術	選択 2	○			

※2010年度は前期のみ開講

※2010年度は前期のみ開講

△注意事項

- 1) ★印の5科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。(余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。)
- 2) ※印「生活の中の化学」について、物質化学科の学生は履修不可。

■総合科目

科目名	単位数		配当年次				
			1年次		2年次		
			前	後	前	後	
情報社会とメディア	選択	2	○	○			
現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○	※2010年度は後期のみ開講
情報と人間	選択	2		○			
スポーツ文化論	選択	2			○	○	※2010年度は前期のみ開講
情報倫理	選択	2			○		
現代社会と福祉	選択	2	○				
メディアにみる福祉	選択	2		○			
世界の福祉	選択	2			○		
国際社会と日本A	選択	2			○		※2010年度は後期開講
国際社会と日本B	選択	2				○	※2010年度は前期開講
国際社会と日本C	選択	2			○		※2010年度は後期開講
日本の文化	選択	2		○			
アジアの文化	選択	2			○	○	
欧米の文化	選択	2			○	○	
海外英語研修	選択	2		○			
科学技術史	選択	2	○	○			
現代の技術	選択	2		○			
環境と倫理	選択	2			○		
環境と人間A	選択	2			○	○	
環境と人間B	選択	2			○	○	
* 自然観察法	選択	2			○		
人権論A	選択	2	○				
人権論B	選択	2		○			
平和学入門	選択	2	○	○			
ジェンダー論	選択	2	○				
生命と共生	選択	2	○	○			
人間と社会と法	選択	2			○		
生活の中の宗教	選択	2	○	○			
現代社会と宗教	選択	2	○	○			※2010年度は後期のみ開講
現代社会とスポーツ	選択	2			○	○	※2010年度は後期のみ開講
健康とスポーツ	選択	2	○	○			※2010年度は後期のみ開講
大学生入門	選択	2	○				※2010年度以降不開講
歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○		
歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○	
教養教育科目特別講義A	選択	2	○				
教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○			
教養教育科目特別講義C	選択	2	○				
教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○			※2010年度は前期のみ開講

⚠ 注意事項

- 1) * 自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

① 共同開講科目の履修方法 【2003年度～2007年度入学生】

■ 基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部の専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1. 必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
スポーツ	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位
外国語	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位

(1) 仏教の思想の履修について

「仏教の思想A・B（各2単位）」は、担当された学期において必ず履修してください。

ただし、担当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(2) スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A・B（各1単位）」は、担当された学期において必ず履修してください。

ただし、担当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(3) 英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。担当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため古来大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育にたいする正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

<習熟度別クラス編成について>

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解及び情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）

の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスの編成方法については、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

<科目概要>

英語ⅠA・ⅠB	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡA・ⅡB	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能(Reading、Writing、Speaking、Listening)のさらなる養成

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「スポーツ技術学A・B」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
- (2) 「英語(再)」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
- (3) 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」の各科目は、予備登録が必要となります。
- (4) 「英語セミナー」の各科目は、予備登録が必要となります。

4. 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目(単位)を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

<先修制授業科目>

- ① **ドイツ語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「ドイツ語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD(各1単位)」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ② **フランス語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「フランス語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD(各1単位)」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ③ **中国語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「中国語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD(各1単位)」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ④ **コリア語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「コリア語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD(各1単位)」のいずれか1単位を修得していなければならない。

<英語以外の外国語概要>

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠA・ⅠB	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠC・ⅠD	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーA、セミナーB	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニュースなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5. 予備登録について (総合科目)

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

(1) 「自然観察法」は、予備登録が必要となります。

設置科目 [2003年度～2007年度入学生]

■基礎科目

科目名	単位数	配当年次			
		1年次		2年次	
		前	後	前	後
仏教の思想A	必修 2	○			
仏教の思想B	必修 2		○		
スポーツ技術学A	必修 1	○			
スポーツ技術学B	必修 1		○		
英語ⅠA	必修 1	○			
英語ⅠB	必修 1	○			
英語ⅡA	必修 1		○		
英語ⅡB	必修 1		○		
英語Ⅲ	必修 1			○	
英語Ⅳ	必修 1				○
英語セミナーA1	選択 2	○			
英語セミナーA2	選択 2		○		
英語セミナーB1	選択 2			○	
英語セミナーB2	選択 2				○
英語セミナーC1	選択 2			○	
英語セミナーC2	選択 2				○
英語セミナーD1	選択 2			○	
英語セミナーD2	選択 2				○
英語セミナーE1	選択 2			○	
英語セミナーE2	選択 2				○
英語セミナーF1	選択 2			○	
英語セミナーF2	選択 2				○
ドイツ語ⅠA	選択 1	○			
ドイツ語ⅠB	選択 1		○		
ドイツ語ⅠC	選択 1	○			
ドイツ語ⅠD	選択 1		○		
ドイツ語セミナーA	選択 2			○	
ドイツ語セミナーB	選択 2				○
フランス語ⅠA	選択 1	○			
フランス語ⅠB	選択 1		○		
フランス語ⅠC	選択 1	○			
フランス語ⅠD	選択 1		○		
フランス語セミナーA	選択 2			○	
フランス語セミナーB	選択 2				○
中国語ⅠA	選択 1	○			
中国語ⅠB	選択 1		○		
中国語ⅠC	選択 1	○			
中国語ⅠD	選択 1		○		
中国語セミナーA	選択 2			○	
中国語セミナーB	選択 2				○

科目名	単位数	配当年次			
		1年次		2年次	
		前	後	前	後
コリア語ⅠA	選択 1	○			
コリア語ⅠB	選択 1		○		
コリア語ⅠC	選択 1	○			
コリア語ⅠD	選択 1		○		
コリア語セミナーA	選択 2			○	
コリア語セミナーB	選択 2				○
文学入門	選択 2	○	○		
哲学入門	選択 2	○	○		
心理学入門	選択 2	○	○		
教育原論A	選択 2	○			
教育原論B	選択 2		○		
発達と教育A	選択 2			○	
発達と教育B	選択 2				○
歴史入門	選択 2			○	○
倫理学入門	選択 2	○	○		
言語学入門	選択 2	○			
論理学入門	選択 2	○	○		
法学入門	選択 2	○			
日本国憲法	選択 2	○	○		
政治学入門	選択 2	○	○		
統計入門	選択 2		○		
社会学入門	選択 2	○	○		
経済学入門	選択 2	○	○		
社会思想史入門	選択 2			○	○
★生活の中の数学	選択 2	○			
★生活の中の物理	選択 2		○		
※★生活の中の化学	選択 2		○		
★生命と科学	選択 2			○	
★生活の中の統計技術	選択 2	○			

※2010年度は前期のみ開講

※2010年度は前期のみ開講

△注意事項

- 1) ★印の5科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。(余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。)
- 2) ※印「生活の中の化学」について、物質化学科の学生は履修不可。

■総合科目

科目名	単位数		配当年次						
			1年次		2年次				
			前	後	前	後			
情報社会とメディア	選択	2	○	○					
現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○			※2010年度は後期のみ開講
情報と人間	選択	2		○					
スポーツ文化論	選択	2			○	○			※2010年度は前期のみ開講
情報倫理	選択	2			○				
現代社会と福祉	選択	2	○						
メディアにみる福祉	選択	2		○					
世界の福祉	選択	2			○				
国際社会と日本A	選択	2			○				※2010年度は後期開講
国際社会と日本B	選択	2				○			※2010年度は前期開講
国際社会と日本C	選択	2			○				※2010年度は後期開講
日本の文化	選択	2		○					
アジアの文化	選択	2			○	○			
欧米の文化	選択	2			○	○			
海外英語研修	選択	2		○					
科学技術史	選択	2	○	○					
現代の技術	選択	2		○					
環境と倫理	選択	2			○				
環境と人間A	選択	2			○	○			
環境と人間B	選択	2			○	○			
* 自然観察法	選択	2			○				
人権論A	選択	2	○						
人権論B	選択	2		○					
平和学入門	選択	2	○	○					
ジェンダー論	選択	2	○						
生命と共生	選択	2	○	○					
人間と社会と法	選択	2			○				
生活の中の宗教	選択	2	○	○					
現代社会と宗教	選択	2	○	○					※2010年度は後期のみ開講
現代社会とスポーツ	選択	2			○	○			※2010年度は後期のみ開講
健康とスポーツ	選択	2	○	○					※2010年度は後期のみ開講
大学生入門	選択	2	○						※2010年度以降不開講
歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○				
歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○			
共同開講科目特別講義	選択	2	○						
教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○					
教養教育科目特別講義C	選択	2	○						
教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○					※2010年度は前期のみ開講

⚠ 注意事項

- 1) * 自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科目名	単位	科目名	単位
文学入門	2	文学入門	2
哲学入門	2	哲学入門	2
心理学入門	2	心理学入門	2
教育原論A	2	教育原論A	2
教育原論B	2	教育原論B	2
発達と教育A	2	発達と教育A	2
発達と教育B	2	発達と教育B	2
歴史入門	2	歴史入門	2
倫理学入門	2	倫理学入門	2
言語学入門	2	言語学入門	2
論理学入門	2	論理学入門	2
法学入門	2	法学入門	2
日本国憲法	2	日本国憲法	2
政治学入門	2	政治学入門	2
統計入門	2	統計入門	2
社会学入門	2	社会学入門	2
経済学入門	2	経済学入門	2
社会思想史入門	2	社会思想史入門	2
生活の中の数学	2	生活の中の数学	2
生活の中の物理	2	生活の中の物理	2
生活の中の化学	2	生活の中の化学	2
生命と科学	2	生命と科学	2
生活の中の統計技術	2	生活の中の統計技術	2

③ 固有科目の履修方法 【2007年度以降入学生】

1. 学部内共通科目の履修方法

理工学部を構成する6学科の共通科目であるが、学科により履修科目が異なる。コンピュータの基礎を学ぶ計算機基礎実習Ⅰ、化学基礎実験および物理実験は必修である。また総合に区分されている環境科学と資源エネルギー論は物質化学科では必修科目なので注意すること。3年次配当の科学技術英語は科学の国際化に対応するための重要な科目である。

2. 学科固有科目の履修方法

物質化学科では「環境にやさしい化学」の専門知識を多く身につけることを目標としておりグリーンケミストリー関連の選択必修科目である「環境化学」「グリーンプロセス工学」「化学リスク学」「エネルギー循環工学」の4科目の中から最低2科目は履修しなければならない。また将来技術者として活躍するための基礎知識として「化学工学概論」を必修としている。

また、4年次では特別研究（卒業研究）を行うに当たり、各人が4年生で行う研究を想定してコース科目（物質評価、無機・金属、有機・高分子の3コース）を選択することが望ましい。

【評価制度について】

① 自己評価制度

学生諸君は学期の開始時にポートフォリオを記入し、その学期の目標を自分自身で設定する。次の学期の初めに、その目標に対する達成度を自己評価する。卒業研究の発表会では、学生諸君が自己評価すると同時に、学生どうしでも相互評価を行う。優れた発表をした者は表彰される。

② 授業評価制度

すべての科目の終了時には、無記名の学生アンケートを実施し、学生諸君による授業評価を行うことにより、教育改善に役立っている。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区 分		単位数	
教養教育科目 (共同開講科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
		学部内共通科目	必修
	選択	4	
	(小計)	(18)	
学科固有科目	必修	64	
	選択必修	4 A)	
	選択	20	
	(小計)	(88)	
合 計		134	

⚠ 注意事項

- A) グリーンケミストリー関連科目より、4単位修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2年進級	必修科目単位数	20
	卒業要件総修得単位数	30 B)
3年進級	必修科目単位数	44
	卒業要件総修得単位数	62 C)
4年進級	必修科目単位数	82
	選択必修科目単位数	
	卒業要件総修得単位数	106 D)
卒 業	必修科目単位数	90
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

- B) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当科目（物理実験、物理化学実験を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位数に含む）
- C) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当科目（無機合成化学実験、有機合成化学実験、機器分析化学実験、科学技術英語、学外実習、物質化学研究デザイン演習を除く）の登録を年間8単位まで認める。（登録制限単位数に含む）
- D) 次の科目をすべて修得していること。

物理実験、化学基礎実験、計算機基礎実習Ⅰ、無機合成化学実験、有機合成化学実験、物理化学実験、機器分析化学実験、学外実習、物質化学研究デザイン演習

4. 設置科目

区分	授業科目	単位数	配当年次 (前期・後期)								備考		
			1年		2年		3年		4年				
			前	後	前	後	前	後	前	後			
学部内 共通科目	科学技術英語	必修	2						○				
	化学概論I	選択	2										2007年度以降不開講
	生物学概論I	選択	2			○							
	生物学概論II	選択	2				○						
	地学概論I	選択	2	○									
	地学概論II	選択	2		○								
	物理実験	必修	2			○							
	化学基礎実験	必修	2		○								
	計算機基礎実習I	必修	2	○									
	計算機基礎実習II	選択	2				○						
	自然観察実習	選択	2	○									
	生物学実験	選択	2						○				
	地学実験	選択	2	○									
	学外実習	必修	2					○					
	科学思想史	選択	2				○		○			○	
	情報学概論	選択	2			○		○		○			
	環境科学	必修	2	○									
	資源エネルギー論	必修	2		○								
	人間工学	選択	2				○		○			○	
	工学概論	選択	2			○		○		○			
	生態情報概論	選択	2			○		○		○			
	工業経済	選択	2				○		○		○		
	生態学概論	選択	2			○		○		○			
	地域環境概論	選択	2			○		○		○			
	地球環境概論	選択	2				○		○		○		
	情報と職業	選択	2			○							
	MOT概論	選択	2			○		○		○			
MOT演習	選択	2				○		○		○			
知的財産概論	選択	2		○		○		○		○			
キャリアデザイン	選択	2	○										
キャリアプランニング	選択	2			○								
学部 固有科目	環境化学	選必	2			○							4単位以上修得すること
	グリーンプロセス工学	選必	2				○						
	化学リスク学	選必	2					○					
	エネルギー循環工学	選必	2					○	●				
	数学I・演習	必修	2	○									
	数学II・演習	必修	2		○								
	数学III・演習	必修	2			○							
	化学数学	選択	2				○						
	物理学I・演習	必修	2		○								
	物理学II・演習	必修	2			○							
	物理学III・演習	必修	2				○						
	物理学IV・演習	選択	2					○					
	分析化学	必修	2	○									
	物理化学I・演習	必修	2		○								
	物理化学II・演習	必修	2			○							
	物理化学III	必修	2				○						
物理化学IV	必修	2					○						
量子化学	選択	2					○						
機器分析化学	選択	2						○					
分子設計化学	選択	2							○				
構造解析学	選択	2								○			

5. カリキュラムフローチャート

フロー (流れ)	1 年		2 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期
I (理工学基礎)	英語 I A	英語 II A	英語 III	英語 IV
	英語 I B	英語 II B		
	数学 I・演習	数学 II・演習	数学 III・演習	化学数学
		物理学 I・演習	物理学 II・演習	物理学 III・演習
	計算機基礎実習 I			計算機基礎実習 II
		化学工学概論		
II (グリーンケミストリー)	環境科学	資源エネルギー論	環境化学	グリーンプロセス工学
III (物質化学の基礎と応用)	(分析・物理化学) (物質評価)	分析化学	物理化学 I・演習	物理化学 II・演習
				物理化学 III 物理化学 IV
	(無機・金属)	無機化学 I・演習	無機化学 II・演習	無機化学 III
			無機化学 IV	
	(有機・高分子)	有機化学 I・演習	有機化学 II・演習	有機化学 III
			有機化学 IV 高分子化学	高分子プロセス化学
IV (実験)		化学基礎実験	物理実験	物理化学実験
V (創成科目)	物質化学総論		キャリアプランニング	
	入門セミナー キャリアデザイン			

3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期
化学英語演習	科学技術英語	英語セミナー	
物理学IV・演習			
工業化学	工業法規		
化学リスク学	エネルギー循環工学		
量子化学 機器分析化学	分子設計化学 構造解析学		
結晶材料工学 セラミック材料工学	ナノ材料工学 機能材料工学		
有機構造解析学 生化学	有機材料化学 高分子材料化学		
無機合成化学実験 有機合成化学実験	機器分析化学実験		
学 外 実 習	物質化学研究デザイン演習	特 別 研 究	

付きゴシック文字は必修科目を示す

付き文字は選択必修科目を示す

③固有科目の履修方法 【2004年度～2006年度入学生】

1. 学部内共通科目の履修方法

理工学部を構成する6学科の共通科目であるが、学科により履修科目が異なる。コンピュータの基礎を学ぶ計算機基礎演習Ⅰ、化学実験である理工学部基礎実験Bおよび物理学実験である理工学部基礎実験Aは必修である。また総合に区分されている環境科学と資源エネルギー論は物質化学科では必修科目なので注意すること。3年次配当の科学技術英語は科学の国際化に対応するための重要な科目である。

2. 学科固有科目の履修方法

数学序論、物理学序論は随意科目であるが高校で数学Ⅲ、物理ⅠB、物理Ⅱを履修しなかった人ならびに履修はしたが理解が不十分と思われる人は受講すること。学年が進行すると授業内容が高度になるので早めに苦手科目をなくしておく必要がある。学科固有科目を履修する上で以下の2点について特に注意すること。

物質化学科では「環境にやさしい化学」の専門知識を多く身につけることを目標としておりグリーンケミストリー関連の選択必修科目である「物質循環工学」「資源工学」「化学リスク学」「エネルギー循環工学」「環境生態学」「グリーンプロセス工学」の6科目の中から最低2科目は履修しなければならない。また将来技術者として活躍するための基礎知識として「化学工学概論」を必修としている。

また、4年次では特別研究（卒業研究）を行うに当り、各人が4年生で行う研究を想定してコース科目（物質評価、無機・金属、有機・高分子の3コース）を選択することが望ましい。

【評価制度について】

①自己評価制度

学生諸君は学期の開始時にポートフォリオを記入し、その学期の目標を自分自身で設定する。次の学期の初めに、その目標に対する達成度を自己評価する。卒業研究の発表会では、学生諸君が自己評価すると同時に、学生どうしても相互評価を行う。優れた発表をした者は表彰される。

②授業評価制度

すべての科目の終了時には、無記名の学生アンケートを実施し、学生諸君による授業評価を行うことにより、教育改善に役立っている。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区 分		単位数	
共同(共通科目) 開講科目	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
(小計)		(6)	
学部内共通科目		必修	14
		選択	4
		(小計)	(18)
学科固有科目		必修	56
		選択必修	4 A)
		選択	28
		(小計)	(88)
合 計		134	

⚠ 注意事項

A) グリーンケミストリー関連科目（物質化学総論、環境化学を除く）より、4単位修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2年進級	必修科目単位数	20
	卒業要件総修得単位数	30 B)
3年進級	必修科目単位数	40
	卒業要件総修得単位数	62 C)
4年進級	必修科目単位数	74
	選択必修科目単位数	
	卒業要件総修得単位数	106 D)
卒 業	必修科目単位数	82
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

B) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当科目（理工学基礎実験A、物理化学実験を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位数に含む）

C) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当科目（無機合成化学実験、有機合成化学実験、機器分析化学実験、科学技術英語、学外実習、物質化学研究デザイン演習を除く）の登録を年間8単位まで認める。（登録制限単位数に含む）

D) 次の科目をすべて修得していること。

理工学基礎実験A、理工学基礎実験B、計算機基礎実習I、無機合成化学実験、有機合成化学実験、物理化学実験、機器分析化学実験、学外実習、物質化学研究デザイン演習

4. 設置科目

区分	授業科目	単位数	配当年次 (前期・後期)								備考	
			1年		2年		3年		4年			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
学部内 共通科目	科学技術英語	必修	2						○			
	化学	化学概論 I	選択	2	○							2007年度以降不開講
	生物	生物学概論 I	選択	2			○					
		生物学概論 II	選択	2				○				
	地学	地学概論 I	選択	2	○							
		地学概論 II	選択	2		○						
	実験・実習	理工学基礎実験 A	必修	2			○					
		理工学基礎実験 B	必修	2		○						
		計算機基礎実習 I	必修	2	○							
		計算機基礎実習 II	選択	2				○				
		生物多様性実習 B	選択	2	○	●						
		生物学実験	選択	2						○		
		地学実験	選択	2	○							
		学外実習	必修	2					○			
	総合	科学思想史	選択	2				○				○
		情報学概論	選択	2			○				○	
		環境科学	必修	2	○							
		資源エネルギー論	必修	2		○						
		人間工学	選択	2				○			○	
		工学概論	選択	2			○				○	
生体情報概論		選択	2			○				○		
工業経済		選択	2				○			○		
生態学概論		選択	2			○				○		
地球環境概論		選択	2				○			○		
情報と職業		選択	2			○						
MOT概論		選択	2			○				○		
MOT演習		選択	2				○			○		
知的財産概論		随意	②		○		○			○		
キャリアデザイン	選択	2	○							2005年度以降入学生対象		
キャリアプランニング	選択	2			○					2005年度以降入学生対象		
学 科 固 有 科 目	グリーンケミストリー関連科目	物質化学総論	必修	2	○							
		環境化学	必修	2			○					
		物質循環工学	選必	2				○				
		資源工学	選必	2					○			
		化学リスク学	選必	2					○			
		エネルギー循環工学	選必	2						○		
		環境生態学	選必	2						○		
		グリーンプロセス工学	選必	2						○		
	数学	数学序論	随意	②	○							
		数学 I	必修	2		○						
物理学	数学 II	必修	2			○						
	数学 III	選択	2				○					
	物理学序論	随意	②	○								
物理化学	物理学 I	必修	2		○							
	物理学 II	必修	2			○						
	物理学 III	選択	2				○					
物理化学	分析化学	必修	2	○								
	物理化学 I	必修	2		○							
	物理化学 II	必修	2			○						
	物理化学 III	必修	2				○					
		量子化学	選択	2				○				

5. カリキュラムフローチャート

フロー (流れ)	1 年		2 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期
I (理工学基礎)	英語 I A 英語 I B	英語 II A 英語 II B	英語 III	英語 IV
	(数学序論)	数 学 I	数 学 II	数 学 III
	計算機基礎実習 I			計算機基礎実習 II
	(物理学序論)	物 理 学 I	物 理 学 II	物 理 学 III
II (グリーン ケミストリー)	物質化学総論 環 境 科 学	資源エネルギー論	環 境 化 学	物質循環工学 資源工学
	III (物質化学基礎)	分 析 化 学	物 理 化 学 I	物 理 化 学 II
無 機 化 学 I		無 機 化 学 II	電子化学	固 体 化 学
有 機 化 学 I		有 機 化 学 II	有 機 化 学 III	高 分 子 化 学
化学概論 I			化学工学概論	
IV (実験)		理工学基礎実験B	理工学基礎実験A	物理化学実験
V (物質評価)				
VI (無機・金属)				セラミック材料工学
VII (有機・高分子)				有機機器分析化学
VIII (少数教育)	入 門 セ ミ ナ ー			

	3 年		4 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期
	化学英語演習	科学技術英語		
	化学リスク学 エネルギー循環工学	環境生態学 グリーンプロセス工学		
	量子化学 無機プロセス化学		無機・物理化学演習	
	生化学 工業化学	有機・高分子化学演習 工業法規		
	無機合成化学実験 有機合成化学実験	機器分析化学実験		
	無機機器分析化学 環境分析化学	分子設計化学 構造解析学		
	結晶材料工学	ナノ材料工学 機能材料工学		
	高分子合成化学	高分子物性 有機材料化学		
	学 外 実 習	物質化学研究デザイン演習	セ ミ ナ ー	
			特 別 研 究	

付きゴシック文字は必修科目を示す

付き文字は選択必修科目を示す

③固有科目の履修方法 【2000年度～2003年度入学生】

1. 学部内共通科目の履修方法

理工学部を構成する6学科の共通科目であるが、学科により履修科目が異なる。コンピュータの基礎を学ぶ計算機基礎演習Ⅰ、化学実験である理工学部基礎実験Bおよび物理学実験である理工学部基礎実験Aは必修である。また総合に区分されている環境科学と資源エネルギー論は物質化学科では必修科目なので注意すること。3年次配当の科学技術英語は科学の国際化に対応するための重要な科目である。

2. 学科固有科目の履修方法

数学序論、物理学序論は随意科目であるが高校で数学Ⅲ、物理ⅠB、物理Ⅱを履修しなかった人ならびに履修はしたが理解が不十分と思われる人は受講すること。学年が進行すると授業内容が高度になるので早めに苦手科目をなくしておく必要がある。学科固有科目を履修する上で以下の2点について特に注意すること。

物質化学科では「環境にやさしい化学」の専門知識を多く身につけることを目標としておりグリーンケミストリー関連の選択必修科目である「物質循環工学」「資源工学」「化学リスク学」「エネルギー循環工学」「環境生態学」「グリーンプロセス工学」の6科目の中から最低2科目は履修しなければならない。また将来技術者として活躍するための基礎知識として「界面・分離化学」と「特別講義」を選択必修としている。

また、4年次では特別研究（卒業研究）を行うに当り、各人が4年生で行う研究を想定してコース科目（物質評価、無機・金属、有機・高分子の3コース）を選択することが望ましい。

【評価制度について】

①自己評価制度

学生諸君は学期の開始時にポートフォリオを記入し、その学期の目標を自分自身で設定する。次の学期の初めに、その目標に対する達成度を自己評価する。卒業研究の発表会では、学生諸君が自己評価すると同時に、学生どうしても相互評価を行う。優れた発表をした者は表彰される。

②授業評価制度

すべての科目の終了時には、無記名の学生アンケートを実施し、学生諸君による授業評価を行うことにより、教育改善に役立っている。

3. 卒業・進級の要件

(1) 卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区 分		単位数	
共同 開講 科目 (共通 科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
		学部内共通科目	必修
	選択	4	
	(小計)	(18)	
学部固有科目	必修	54	
	選択	34	
	(小計)	(88)	
合 計		134	

(2) 進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3) 進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2年進級	必修科目単位数	24
	卒業要件総修得単位数	30 (A)
3年進級	必修科目単位数	48
	卒業要件総修得単位数	62 (B)
4年進級	必修科目単位数	68
	卒業要件総修得単位数	106 (C)
卒 業	必修科目単位数	80
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

- A) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当科目（理工学基礎実験A、物理化学実験を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位数に含む）
- B) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当科目（無機合成化学実験、有機合成化学実験、機器分析化学実験、科学技術英語、学外実習、物質化学研究デザイン演習を除く）の登録を年間8単位まで認める。（登録制限単位数に含む）

C) 次の科目をすべて修得していること。

理工学基礎実験A、理工学基礎実験B、計算機基礎実習I、無機合成化学実験、有機合成化学実験、物理化学実験、機器分析化学実験、学外実習、物質化学研究デザイン演習

4. 設置科目

区分	授業科目	単位数	配当年次 (前期・後期)								備考			
			1年		2年		3年		4年					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
学部内 共通科目	英語 科学技術英語	必修	2						○					
	化学概論Ⅰ	選択	2	○									2007年度以降不開講	
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○							
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○						
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○									
		地学概論Ⅱ	選択	2		○								
	実験・実習	理工学基礎実験A	必修	2			○							
		理工学基礎実験B	必修	2		○								
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○									
		計算機基礎実習Ⅱ	選択	2				○						
		生物多様性実習B	選択	2	○	●								2003年度入学生対象
		生物学実験	選択	2						○				
		地学実験	選択	2	○									
		学外実習	必修	2					○					
	総合	科学思想史	選択	2					○				○	[原則として総合分野より「環境科学」「資源エネルギー論」以外に4単位以上を2年次から4年次の間に修得すること。 2003年度入学生対象 2003年度入学生対象 01～'02年度入学生対象 01～'02年度入学生対象 2003年度入学生対象
		情報学概論	選択	2				○				○		
		環境科学	必修	2	○									
		資源エネルギー論	必修	2		○								
		人間工学	選択	2				○			○			
		工学概論	選択	2				○			○			
		生体情報概論	選択	2				○			○			
		工業経済	選択	2				○			○			
		生態学概論	選択	2				○			○			
		地球環境概論	選択	2				○			○			
		情報倫理	選択	2				○						
		情報と職業	選択	2						○	●			
		情報と職業	選択	2						○				
MOT概論		選択	2						○		○			
MOT演習		選択	2							○		○		
知的財産概論	随意	②		○		○			○		○			
学 科 固 有 科 目	グリーンケミストリー関連科目	物質化学総論	必修	2	○								2010年度不開講 2010年度不開講	
		環境化学	必修	2			○	●						
		物質循環工学	選択	2				○						
		資源工学	選択	2				○						
		化学リスク学	選択	2					○					
		エネルギー循環工学	選択	2					○					
		環境生態学	選択	2						○				
		グリーンプロセス工学	選択	2						○				
	数学	数学序論	随意	②	○									
		数学Ⅰ	必修	2		○								
物理学	数学Ⅱ	必修	2			○								
	数学Ⅲ	選択	2				○							
	物理学序論	随意	②	○										
物理化学	物理学Ⅰ	必修	2		○									
	物理学Ⅱ	必修	2			○								
	物理学Ⅲ	選択	2				○							
	分析化学	必修	2	○										
	物理化学Ⅰ	必修	2		○									
物理化学	物理化学Ⅱ	必修	2			○								
	物理化学Ⅲ	必修	2				○							
	量子化学	選択	2					○						

区分	授 業 科 目		単位数	配当年次 (前期・後期)								備 考				
				1年		2年		3年		4年						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
学 科 基 本 学 科 目 固 有 科 目	無機化学	無機化学Ⅰ	必修	2	○											
		無機化学Ⅱ	必修	2		○										
		電子化学	選択	2			○									
		固体化学	必修	2				○								
		無機プロセス化学	選択	2					○							
	有機化学	有機化学Ⅰ	必修	2	○											
		有機化学Ⅱ	必修	2		○										
		有機化学Ⅲ	必修	2			○									
		高分子化学	必修	2				○								
		生化学	選択	2					○							
	実験・演習	物理化学実験	必修	2				○								
		無機合成化学実験	必修	2					○							
		有機合成化学実験	必修	2					○							
		機器分析化学実験	必修	2						○						
		化学英語演習	必修	2					○							
		無機・物理化学演習	選択	2							○					2010年度不開講
		有機・高分子化学演習	選択	2								○				2010年度不開講
	その他	工業化学	選択	2					○							
		工業法規	選択	2					●	○						
	コース科目	物質評価	選択	2					○							※
		環境分析化学	選択	2					○							
		分子設計化学	選択	2						○						
		構造解析学	選択	2							○					
無機・金属	セラミック材料工学	選択	2			○	●									
	結晶材料工学	選択	2					○								
	ナノ材料工学	選択	2						○							
	機能材料工学	選択	2							○						
有機・高分子	有機機器分析化学	選択	2				○									
	高分子合成化学	選択	2					○								
	高分子物性	選択	2							○						
	有機材料化学	選択	2								○					
特別研究関連科目	入門セミナー	選択	2	○												
	物質化学研究デザイン演習	必修	2						○							
	プレゼンテーション演習	随意	②						○							
	特別講義	選択	2								○				※2010年度不開講	
	セミナー	必修	2								○					
特別研究	必修	6									○					

「必修」=必修科目、「選択」=選択科目、「随意」=随意科目（卒業要件単位に含めない）

⚠ 注意事項

●は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

※は、JABEE認定プログラムのため、どちらか一科目の修得が必要である。

5. カリキュラムフローチャート

フロー (流れ)	1 年		2 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期
I (理工学基礎)	英語 I A 英語 I B	英語 II A 英語 II B	英語 III	英語 IV
	(数学序論)	数 学 I	数 学 II	数学 III
	計算機基礎実習 I			計算機基礎実習 II
	(物理学序論)	物 理 学 I	物 理 学 II	物理学 III
II (グリーン ケミストリー)	物質化学総論 環 境 科 学	資源エネルギー論	環 境 化 学	物質循環工学 資源工学
III (物質化学基礎)	分 析 化 学	物 理 化 学 I	物 理 化 学 II	物 理 化 学 III
	無 機 化 学 I	無 機 化 学 II	電子化学	固 体 化 学
	有 機 化 学 I 化学概論 I	有 機 化 学 II	有 機 化 学 III	高 分 子 化 学
IV (実験)		理工学基礎実験 B	理工学基礎実験 A	物理化学実験
V (物質評価)				
VI (無機・金属)				セラミック材料工学
VII (有機・高分子)				有機機器分析化学
VIII (少数教育)	入 門 セ ミ ナ ー			

	3 年		4 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期
	化学英語演習	科学技術英語		
	化学リスク学 エネルギー循環工学	環境生態学 グリーンプロセス工学		
	量子化学		無機・物理化学演習	
	無機プロセス化学		有機・高分子化学演習	
	生化学	工業法規		
	工業化学			
	無機合成化学実験	機器分析化学実験		
	有機合成化学実験			
	界面・分離化学 環境分析化学	分子設計化学 構造解析学	特別講義	
	結晶材料工学	ナノ材料工学 機能材料工学		
	高分子合成化学	高分子物性 有機材料化学		
	学 外 実 習	物質化学研究デザイン演習	セ ミ ナ ー	
			特 別 研 究	

付きゴシック文字は必修科目を示す

④ 学科固有科目カリキュラム対照表

2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
科目名	単位	科目名	単位
環境化学	2	環境化学	2
グリーンプロセス工学	2	グリーンプロセス工学	2
化学リスク学	2	化学リスク学	2
エネルギー循環工学	2	エネルギー循環工学	2
		物質循環工学	2
		資源工学	2
		環境生態学	2
数学Ⅰ・演習	2	数学序論	2
数学Ⅱ・演習	2	数学Ⅰ	2
数学Ⅲ・演習	2	数学Ⅱ	2
化学数学	2	数学Ⅲ	2
物理学Ⅰ・演習	2	物理学序論	2
物理学Ⅱ・演習	2	物理学Ⅰ	2
物理学Ⅲ・演習	2	物理学Ⅱ	2
物理学Ⅳ・演習	2	物理学Ⅲ	2
分析化学	2	分析化学	2
物理化学Ⅰ・演習	2		
物理化学Ⅱ・演習	2	物理化学Ⅰ	2
物理化学Ⅲ	2	物理化学Ⅱ	2
物理化学Ⅳ	2	物理化学Ⅲ	2
		無機・物理化学演習	2
量子化学	2	量子化学	2
機器分析化学	2	無機機器分析化学	2
分子設計化学	2	分子設計化学	2
構造解析学	2	構造解析学	2
		環境分析化学	2
無機化学Ⅰ・演習	2	無機化学Ⅰ	2
無機化学Ⅱ・演習	2	無機化学Ⅱ	2
無機化学Ⅲ	2	電子化学	2
無機化学Ⅳ	2	固体化学	2
		無機プロセス化学	2
結晶材料工学	2	結晶材料工学	2
セラミック材料工学	2	セラミック材料工学	2
ナノ材料工学	2	ナノ材料工学	2
機能材料工学	2	機能材料工学	2
有機化学Ⅰ・演習	2	有機化学Ⅰ	2
有機化学Ⅱ・演習	2	有機化学Ⅱ	2
有機化学Ⅲ	2	有機化学Ⅲ	2
有機化学Ⅳ	2		
		有機・高分子化学演習	2
高分子化学	2	高分子化学	2
高分子プロセス化学	2	高分子合成化学	2
有機構造解析学	2	有機機器分析化学	2
生化学	2	生化学	2
有機材料化学	2	有機材料化学	2
高分子材料化学	2	高分子物性	2
物理化学実験	2	物理化学実験	2
無機合成化学実験	2	無機合成化学実験	2
有機合成化学実験	2	有機合成化学実験	2

2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
科目名	単位	科目名	単位
機器分析化学実験	2	機器分析化学実験	2
化学英語演習	2	化学英語演習	2
化学工学概論	2	化学工学概論 (2004年度以降入学生)	2
		界面・分離化学 (2000～2003年度入学生)	2
工業化学	2	工業化学	2
工業法規	2	工業法規	2
物質化学総論	2	物質化学総論	2
入門セミナー	2	入門セミナー	2
物質化学研究デザイン演習	2	物質化学研究デザイン演習	2
プレゼンテーション演習	2	プレゼンテーション演習	2
英語セミナー	2	セミナー	2
特別講義	2	特別講義	2
特別研究	6	特別研究	6

⑤他学科科目の履修について

2001年度より理工学部ではカリキュラム改革の一環として、自主的学習プランの作成と幅広い知識の習得や総合的思考力を養うために、他学科科目の履修を大幅に拡大しました。履修を希望する者は以下の事項に注意して履修してください。

1. 履修可能他学科科目

<科目>

各学科から提供された科目の中から、あなたの所属する学科が履修を認めた科目。
(理工学部教務課備えつけの、他学科科目受講可否一覧を参照してください。)

<配当年次・対象>

科目提供学科での配当年次および対象入学年度に従います。
履修要項で確認してください。

<開講曜講時>

理工学部教務課カウンターに設置している他学科時間割表で確認してください。

2. 単位認定

他学科科目は、各学科次の通り単位認定されます。

<数理情報学科>

2002年度～2006年度入学生は、フリーゾーン科目として16単位まで認定。
2007年度以降入学生は、フリーゾーン科目として10単位まで認定。

<電子情報学科>

2001年度入学生より、学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。

<機械システム工学科>

2001年度入学生～2006年度入学生は、学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。
2007年度入学生より、自由選択科目として9単位まで認定。

<物質化学科>

2000年度入学生より、学科固有科目選択科目として6単位まで認定。

<情報メディア学科>

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

<環境ソリューション工学科>

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

上記以外の学生は随意科目として認定。

3. 履修方法

受講登録より事前に、必ず『他学科科目履修届』(理工学部教務課窓口にて配布)を提出してください。(提出がない場合、受講、単位認定ができない場合があります。)

履修制限単位数に含まれます。

⚠️ 注意事項

科目によっては該当学科の受講生を優先するため、受講可能人数を制限する場合があります。(その場合、掲示にて発表しますので注意してください。)

⑥ 単位互換制度について

単位互換制度とは、他大学が提供する科目のうち、理工学部があらかじめ履修可能科目（掲示等でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定される制度です。受講料は無料です。（ただし、科目により実習・演習料金等が別途必要となる場合があります。）

また、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」においても「単位互換科目」としての授業科目が各大学から提供されています。本学部の学生が「他大学」または「キャンパスプラザ京都」において提供された科目を受講する際は、「単位互換履修生」として扱われることになっています。

理工学部では、大学コンソーシアム京都の単位互換制度と、環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度を利用することができます。

1. 履修条件

【2007年度以前入学生】

随意科目として、大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。

【2008年度以降入学生】

学科	単位互換制度名	備 考			
		単位認定	登録制限	受講対象	備考
数理情報学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中にフリーゾーン科目として上限2単位まで単位を認定する。	履修登録制限単位には含まない。	1年次生～3年次生 (卒業年次生は随意科目として受講可。)	大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。
	環びわ湖大学コンソーシアム				
機械システム工学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中に自由選択科目として上限2単位まで単位を認定する。			
	環びわ湖大学コンソーシアム				
電子情報学科 物質化学科 情報メディア学科 環境ソリューション工学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中に教養教育科目の総合科目として上限2単位まで単位を認定する。			
	環びわ湖大学コンソーシアム				
	環びわ湖大学コンソーシアム				

2. 「単位互換履修生」の学籍およびその取り扱い

- ①履修手続きを完了した者には、科目開設大学における「単位互換履修生」となります。
- ②単位互換履修生は許可を受けた授業科目について受講することができ、当該科目についての試験に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
- ③単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲において、履修期間中に限りその大学の施設（図書館等）を利用することができます。

3. 試験について

試験期間は、科目開設大学の定めるところにより実施されますので、当該科目と本学の試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談してください。

なお、単位互換科目に関し本学定期試験と重なった場合の取扱いは以下のとおりです。

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱い科目

本学の授業科目	単位互換科目	対応方法	本学の科目の追試対象	追受 試験料
◎	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
○	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、本人の判断により選択可能。	認める	必要
○	○	本人の判断により選択	認める	必要

4. その他の注意事項

単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかしながらその一方では、受講が許可されたにも関わらず受講を放棄する学生も多数います。許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることになります。出願にあたっては、途中で放棄することのないよう慎重に科目を選択し、受講が許可された場合には必ず最後まで受講するようにしてください。

5. 大学コンソーシアム京都の単位互換制度について

大学コンソーシアム京都においては、1994年度から京都地域の大学および短期大学が単位互換の協定を締結し、各大学から特色ある科目を提供することによって、相互に科目履修のできる「単位互換授業」の制度を設置、さらには、1998年度からは、学生が在学中に企業や行政機関およびNPO・NGO団体等において就業体験をする「インターンシップ・プログラム」を開講し、これらの事業内容を年々充実すると共に継続的に発展させています。

この「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」等の大学コンソーシアムの事業には、本学を含め40以上の大学および短期大学が参加していることもあり、これまでも多くの学生が参加しています。

これらの教育プログラムの具体的な内容等の案内および出願手続きの資料等については、今後、理工学部教務課（および「インターンシップ・プログラム」についてはインターンシップ支援オフィス）窓口にて配付する予定です。

(1)出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都 単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された登録日に出願手続きをおこなってください。

対象科目	登録日
全科目（前期科目・後期科目・集中科目すべて）	4月1日（木）9：00～4月7日（水）17：00

出願手続きは、ポータルサイトにログインして「単位互換申請」に入力してください。なお、受講機会拡大のため、集中科目・後期科目の定員に余裕がある科目について、6月初旬に追加登録をおこないます。

科目開設大学の都合により、男子学生の受講が制限されたり、科目の性質から学部および学年が制限される場合があるので注意してください。受講資格については、「単位互換開講科目シラバスWeb」または募集ガイドの「単位互換科目詳細」の項を参照してください。

(2)履修許可および履修手続き

申し込み者多数の場合は、選考（書類選考等）をおこなう場合があります。科目開設大学からの選考結果は4月末頃掲示でお知らせします。許可を受けた者は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続き（身分証明書用写真、実習費用の必要な場合には、費用の納入など）を必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

- 休講・補講・教室変更等の連絡は、大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

ホームページアドレス <http://www.consortium.or.jp/>

6. 「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムが用意されております。

①短期実践型（夏期）「ビジネスコース」・「パブリックコース」

夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関およびNPO・NGO団体等においておこなう。

②長期プロジェクト型「プログレスコース」

3～6ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際にひとつのプロジェクトを担当する。

③短期体験型（冬期）「トライアルコース」

短期大学生および4年制大学1・2年次生を対象に12月中旬～2月下旬にかけて最低5日間の実習をおこなう。なお、2010年度は休止する予定です。詳細は大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

「インターンシップ・プログラム」は理工学部では最終評価に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定されます。なお、インターンシップ・プログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

これらの「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験等と「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので理工学部教務課窓口で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容等については、2010年度の「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」で確認してください。

(1)資格要件 理工学部学生の履修条件は以下のとおりです。

3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

(2)出願手続について

理工学部教務課、またはインターンシップ支援オフィス窓口において、「インターンシップ実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。なお、出願できるのは、1名につき1コースであり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、その全てが無効になるので注意してください。

(3)インターンシップ・プログラムの枠組みについて

「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとした、各コースの目的に沿ったプログラムの学習・実習がおこなわれます。

①事前学習について

実習に先だって、実習が有意義なものとなるように準備に万全をきすためのプログラムで、オリエンテーション、実習先の研究を通じ職業意識を啓蒙するディスカッション、最低限必要なパソコンのスキルアップやビジネスマナー講座などがあります。

②実習について

実習先において正（準）社員・職員と同じ責任と意識をもった就業体験ができるよう、各受入先では特色あるプログラムが策定されています。

③事後学習について

ゼミクラスで各々の実習体験を報告することによって、自らの問題意識や関心を明確にし、今後の学習効果やライフプランにつなげていくことを重点とした学習をおこないます。

(4)実習先の決定について

実習生の希望や適性を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーター（大学教員）を中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際、受け入れ人数の問題等によって、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

7. 環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度について

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度が提供する科目を履修し、それを単位として認定する制度です。この制度は、2005年度から開始され、滋賀県特有の内容をテーマにした科目や各大学や短期大学の学部・学科・専攻の特徴的な科目が提供されています。本学の学生は本学の定める範囲において、単位互換科目を受講することができます。

(1)出願手続きについて

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度で提供される科目の履修を希望する学生は、指定された登録期限日までに
出願手続きをおこなってください。出願書類は、カウンター配布の「環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度 出願票」を1科目1枚として、事前に各学科教務委員の確認を得た上で、理工学部教務課窓口
に提出してください。

受講料は、実習費等が別途必要な場合を除いて無料です。ただし、実習費等が必要な科目については、履修許可通知が届いた後、科目開設大学の指示にしたがって納入してください。

(2)履修許可および履修手続き

出願者多数の場合は、科目開設大学において選考が行われ（原則として、出願票に各自が記載した「志望理由」をもとに選考されます）、選考結果は本学を通じて出願者に通知します。許可通知は4月末頃の予定です。前期科目の場合、出願して履修許可通知があるまでの4月前半に授業が開始されることがあります。この場合、履修許可通知があるまでは、その出願科目を仮受講してください。

許可通知の後、科目開設大学によっては写真提出等の別途手続きを必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

⑦日本技術者教育認定機構（JABEE）について

1. JABEEとは

JABEEとは「日本技術者教育認定機構」のことです。英語名の“Japan Accreditation Board for Engineering Education”の頭文字をとったもので「ジャビー」と愛称されています。JABEEは、大学などの高等教育機関のプログラムを審査し、その内容が国際的に認められるレベルにあり、技術者として活動するために必要な知識や能力の養成に成功していると判断したとき、認定を与えます。

2. JABEEによる認定制度

JABEEによる審査は、定められた明確な基準に照らし、書類審査と実地審査に基づいて、厳密かつ公正に行われます。JABEEはまた、アメリカ、イギリスを始め、世界各国が加盟するワシントン協定に加盟しており、JABEEの認定は国際的な認定として認められています。

3. 認定の基準

JABEEは以下の基準をすべて満たした技術者教育プログラムに対して認定を与えます。

- (1)大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。
- (2)教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。
- (3)教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。
- (4)入学学生の質、教員、設備、大学のサポート、財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は、教育機関が、整然とした教育目標と教育戦略を持ち、必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために、人的資源や設備が組織的にも財務的にも充分であることを要求するものです。(JABEEホームページより)

4. 認定を受けるメリット

JABEEから認定を受けるためには、基準を満たすため数々の教育改善を継続的に実行することが求められます。また、それを客観的に説明する努力も必要となります。このようにして、学部や学科での教育内容や方法に継続的な改善が加えられるので、学生諸君は常に社会の要求に合致した質の高い教育を受けられることが保証されます。また、JABEE認定プログラムを修了するということは、国際的に通用する技術者として認められるための第一歩を踏み出すことでもあります。その評価が、卒業後の皆さんの活躍により益々高まり、広範囲なものになることを期待します。また、修了生には技術士になるための1次試験（技術士補試験）が免除されるなどの直接的なメリットも期待できます。

5. 理工学部における取り組み

本学理工学部ではJABEE認定に対し深い関心を寄せており、2003年度には、物質化学科が関西にある私立大学の化学系としては初めて、JABEEの認定を受けました。

⑧卒業年次生の大学院授業科目の履修について

理工学部では、卒業年次生のうち特に優秀な学生に対し、学部における修学に影響のない範囲で本学大学院理工学研究科科目（以下、大学院科目）の履修を認めています。この制度の利用者には大学院への進学を奨励するため、学内推薦入学試験の受験を要件としています。

大学院科目の履修ならびに学内推薦入学試験の受験に関して、指導教員または教務委員とよく相談することをおすすめします。

また、大学院理工学研究科修士課程1年修了制を利用して、大学院理工学研究科修士課程の在学期間を短縮することが可能です。これは、文部科学省の大学院設置基準および本学大学院学則第12条に基づき実施されるものです。

1. 履修出願資格

大学院科目の履修を出願できる者は、次の各号に該当し、かつ研究科委員会の定める要件を満たさなければなりません。

- ①本学理工学部の卒業年次生
- ②大学院科目を履修する能力を有する者
- ③本学大学院理工学研究科への進学を希望している者であって、かつ学内推薦入学試験（詳細は学内推薦入学試験要項を参照してください。）に出願を希望している者。ただし、同試験において不合格となった場合および入学手続を所定の期間に行わなかった場合は履修許可を取り消すものとする。
- ④各専攻において別途定める基準を満たす者

2. 出願方法

大学院科目の履修を希望する者は、卒業年次の第一学期（前期）履修登録時に所定の願書を理工学部教務課に提出し、研究科委員会の議に基づき、教授会の承認を得て、履修が許可されます。

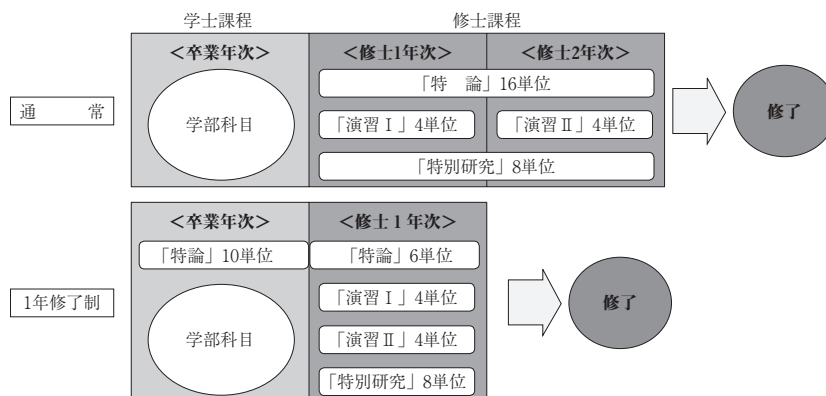
3. 単位認定

許可された者が、出願した大学院科目に合格した場合は、本学大学院理工学研究科に入学した際に、研究科委員会の議を経て大学院科目として単位が認定されます。

この単位は、理工学部の卒業要件単位としては認められませんので、注意してください。

4. 修士課程1年修了制のしくみ

修士課程を1年間で修了するためには、下図のように、卒業年次の時に大学院の特論科目（10単位）を修得し（大学院入学時に単位認定）、修士1年次の時に修了要件単位に必要な特論科目（6単位）と演習Ⅰ・Ⅱ（8単位）、特別研究（8単位）を修得して、修士論文の審査に合格しなければなりません。



Ⅳ 諸課程等の履修方法

① 教職課程

教育職員免許法に基づき、本学が認定を受けている免許状の種類は下記の通りです。本学学則に定める所定の単位を修得することによって、下記の免許状が取得できます。

入学年度により取得できる免許状が異なりますので注意してください。

教育職員免許法取得に関する科目の履修方法については、「履修要項別冊 教職課程ガイドブック（瀬田学舎共通）」を参照してください。

<2000年度以降入学生>

学科	免許教科	中学校教諭	高等学校教諭
数理情報学科	数 学	一種免許状	一種免許状
	情 報		一種免許状
電子情報学科	工 業		一種免許状
	情 報		一種免許状
機械システム工学科	工 業		一種免許状
物質化学科	理 科	一種免許状	一種免許状
情報メディア学科	情 報		一種免許状
環境ソリューション工学科	理 科	一種免許状	一種免許状

② 本願寺派教師資格課程

本願寺派教師資格は、下記の本学部開講の関連科目を履修することによって取得できます。

本山教師科目	本学部開講の関連科目	単位	配当年次	備考
真 宗 教 義	真 宗 学 概 論	4	2	
仏 教 教 義	仏 教 学 概 論	4	2	
真 宗 史	真 宗 史	4	1	
仏 教 史	日 本 仏 教 史	4	1	
宗 教 概 説	宗 教 学 概 論	4	2	
勤 式 作 法	勤 式	4	1	*
宗 門 法 規	宗 門 法 規	2	1	◎
布 教 法	教 化 法	4	1	*

隔年開講の科目がありますので、計画的に履修してください。

*……2006、2008、2010年度開講

◎……2007、2009、2011年度開講

③特別研修講座

課程	目的・内容	担当課
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職業会計士課程	簿記の初歩から指導をおこない、商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験3級・2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く強制職員や犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人々を、養成することを目的としています。	法学部教務課窓口
法職課程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験、家庭裁判所調査官補試験など）の合格を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な学習カリキュラムを編成し、良質な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター窓口
模擬試験 資格試験	<模擬試験> TOEIC®IP / TOEFL®-ITP	生協窓口
	<資格試験> 簿記検定試験	経営学部教務課窓口
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。	就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 <就職対策系> マスコミ就職対策講座／就職活動まるごと集中講座／エントリーシートの書き方講座／R-CAP/E-Testing (Web就職筆記試験対策)／就職筆記試験対策講座／福祉・保育施設就職模擬試験 <資格系> 公務員講座／TOEIC®500点対策講座／秘書検定講座<準1・2級>／旅行業務取扱管理者講座／宅地建物取引主任者講座／2級FP技能士・AFP講座／Microsoft Certified Application Specialist講座 (Word・Excel) / ITパスポート講座／ホームヘルパー2級講座	キャリア開発部 (深草・大宮) 窓口
	<就職対策系> マスコミ就職対策講座／就職活動まるごと集中講座／エントリーシートの書き方講座／R-CAP/E-Testing (Web就職筆記試験対策)／就職筆記試験対策講座 <資格系> 公務員講座／TOEIC®500点対策講座／秘書検定講座<準1・2級>／色彩検定講座<2・3級>／旅行業務取扱管理者講座／貿易実務検定講座<C級>通関士講座／Microsoft Certified Application Specialist講座 (Word・Excel・PowerPoint) / ITパスポート講座／基本情報技術者講座／CAD利用技術者講座／危険物取扱者講座／社会福祉士国家試験対策講座／ホームヘルパー2級講座	キャリア開発部 (瀬田) 窓口

※ 上記の講座以外にも、「RECコミュニティカレッジ」（生涯学習講座）を多数開講しています。

本学学生は会員価格で受講できます。詳しくはパンフレットをご覧ください。

※ TOEIC®はエデュケーション・テスト・サービス (ETS) の登録商標です。この（印刷物／製品／ウェブサイト）はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

TOEFL®はエデュケーション・テスト・サービス (ETS) の登録商標です。この印刷物（あるいは製品）はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

V 協定型インターンシッププログラム

①プログラムについて

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。このプログラムの具体的な内容については、インターンシップ支援オフィス発行の「インターンシッププログラム2010」のリーフレットを参照してください。

また、2007年度より理工学部で卒業要件単位として単位認定されることになりました。詳細については、下記のとおりです。

(1)対象学年

学部3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

なお、協定型インターンシッププログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

(2)単位認定

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

学部	学科・専攻	科目名称 (学則上の名称)	科目 単位数	単位数 (上限)	科目区分	必須・ 選択区分	対象年次	単位認定 の取り扱い	備 考
理工 学部	全学科	****	**	**	*****	*****	1～2年次生	単位認定 対象外	
		学外実習	2	2単位	固有科目	学科によつ て異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学 外実習」で読み替える。

(3)応募方法

当プログラムの応募方法等の詳細内容については、インターンシップ支援オフィスで配布される募集要項を参照してください。

(4)シラバス

次ページ参照

(5)定期試験及び追試験受験資格の認定

インターンシップ実習受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談ください。

なお、協定型インターンシップの実習期間が本学定期試験と重なった場合の取扱いは、次のとおりです。

本学の授業科目	協定型 インターンシップ	対応方法	本学の科目の 追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	必要
○	○	本人の判断により選択可能	認める	必要

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

(6)注意事項

このインターンシップ・プログラムは、事前学習・実習・事後学習の全てのカリキュラムを通じて、キャリア形式を支援する内容となっているため、原則欠席することはできません。また、途中で辞退することは、実習先をはじめとして、受講できなかった学生にも大変な迷惑をかけることになるため、特別な事情がない限り認められません。

2010年度体験型インターンシップ「協定型インターンシップ」授業計画

(総合コーディネーター：築地達郎)

	日程	場所	講師	講義名	内容
第1講	6月19日(土) 1限目	大宮 本館講堂	担当教員 総合コーディネーター	オリエンテーション	・インターンシップとは ・社会環境・状況 ・プログラム概要説明
第2講	6月19日(土) 2限目	大宮 本館講堂	学長 担当教員 総合コーディネーター	建学の精神	学長による建学の精神にもとづく講義
第3講	6月19日(土) 3限目	大宮 ゼミ教室	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループ ワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・自己紹介 など
第4講	6月26日(土) 1限目	深草 2号館 205～211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループ ワーク②	ゼミ形式によるグループワーク ・インターンシップ実習目的設定 ・グループ別プレゼンテーション ・受け入れ担当者による講義 ・インターンシップ体験者による報告 など
第5講	6月26日(土) 2限目	深草 2号館 205～211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループ ワーク③	
第6講	6月26日(土) 3限目	深草 2号館 205～211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループ ワーク④	
第7講	7月3日(土) 1限目	瀬田 6号館 プレゼン ルーム	外部講師 総合コーディネーター	ビジネスマナー①	ビジネスマナー ・第一印象、コミュニケーション能力 養成 ・敬語の使い方、マナー等
第8講	7月3日(土) 2限目	瀬田 6号館 プレゼン ルーム	外部講師 総合コーディネーター	ビジネスマナー②	ビジネスマナー実技 ・電話応対、来客応対、名刺交換
第9講	7月3日(土) 3限目	瀬田 6号館 プレゼン ルーム	外部講師 総合コーディネーター	ビジネスマナー③	ビジネス文書の基本 ・ビジネス文書の書き方 ・電子メール等
第10講	7月10日(土) 1限目	深草 2号館 205～211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループ ワーク⑤	・インターンシップ(企業・業界)研究 ・プレゼンテーション能力 ・コミュニケーション能力
第11講	7月10日(土) 2限目	深草 2号館 205～211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループ ワーク⑥	・インターンシップ(目的の明確化) 研究 ・中間発表報告
第12講	7月10日(土) 3限目	深草 2号館 205～211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループ ワーク⑦	グループ別プレゼンテーション
学生による実習先訪問(7/5～7/21)					
第13講	7月31日(土) 2限目	瀬田 2号館 120	総合コーディネーター	実習直前オリエン テーション	実習にあたっての準備・確認・注意事項 ・リスクマネジメント等
インターンシップ実習(総合コーディネーター・担当教員による中間指導)					
第14講	9月25日(土) 1限目	瀬田 ※教室未定	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループ ワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・実習内容と目標の到達についてプレ ゼンテーション ・相互評価
第15講	9月25日(土) 2限目	瀬田 ※教室未定	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループ ワーク②	
第16講	10月2日(土) 1限目	深草 2号館 205～211	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループ ワーク③	ゼミ形式によるグループワーク ・実習内容と目標の到達についてプレ ゼンテーション ・相互評価
第17講	10月2日(土) 2限目	深草 2号館 205～211	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループ ワーク④	
第18講	10月9日(土) 3限目	深草 3号館 202	担当教員 総合コーディネーター	(事後学習グルー プワーク⑤) 全体報告会	・学生によるグループ発表 ・総括及び講評
第19講	10月9日(土) 4限目	深草 3号館 202	担当教員 総合コーディネーター	(事後学習グルー プワーク⑥) 全体報告会	

学 修 生 活

I 窓口事務

窓口取扱時間は次のとおりです。

1. 理工学部教務課の窓口取扱時間

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	9:00～17:30	ただし、授業期間・試験期間以外の期間は、11:45～12:45を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10:45～17:30	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

2. 届書・願書および各種証明書

理工学部教務課窓口で取り扱う届書・願書および各種証明書には次のものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用して下さい。(理工学部教務課窓口で受け取ってください。)

(1) 届書

事項	添付書類
※保証人変更届	特になし
現住所変更届	特になし
本籍地変更届	住民票記載事項証明書 (本籍地記入)
改姓名届	住民票記載事項証明書

(※印のものは、保証人の連署が必要。)

(2) 願書

事項	添付書類	受付期間
※休学願	理由書または診断書	○1年間・第1学期休学 当該年度の6月30日まで ○第2学期休学 当該年度の12月31日まで
※復学願	理由書	○第1学期復学 前年度3月1日から3月31日まで ○第2学期復学 当該年度9月1日から9月30日まで
※退学願	理由書または診断書、 学生証	
追試験受験願	理由書、追試験料納付書、 診断書等の証明書	当該科目の試験日を含め4日以内 (土・日・祝日は含まない)

(※印のものは、保証人の連署が必要。)

(3) 各種証明書の交付申請

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行いたします。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できない証明書がありますので、その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、理工学部教務課窓口へ提出・交付申請を行ってください。

なお、電話やファクシミリ、電子メールによる証明書の交付申請は一切取り扱っておりませんので、予め留意してください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な日数等	証明書の種類	手数料 (2007.4.1変更)	備 考
即日交付	在学証明書	1通 100円	左記証明書は（通学証明書を除く）、証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業（修了）証明書		
	卒業（修了）見込証明書		
	学業成績証明書	1通 200円	
	健康診断証明書		
	卒業（修了）・学業成績証明書		
	卒業（修了）見込・学業成績証明書	無 料	
通学証明書（理工学部教務課窓口で受付）			
学割証			
2日後交付	単位修得証明書	1通 100円	左記証明書は、証明書自動発行機で交付願を出力し、理工学部教務課窓口へ提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
本願寺派教師資格科目履修証明書			
1週間後交付	英文証明書	1通 300円	
	学力に関する証明書	1通 200円	

(注1) 交付日は、原則として申請日から交付に要する日数を示します。

(注2) 手数料の納金は、すべて証明書自動発行機で行ってください。

(注3) 卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは理工学部掲示板でお知らせします。

(注4) 「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

《卒業後の証明書交付申請》

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学のホームページ上から「証明書交付願」フォームがダウンロードできます。携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

URL <http://www.ryukoku.ac.jp>（本学ホームページ）の（訪問者別ガイド）「卒業生の方に」－「関連ページガイド」の「各種証明書発行について」からアクセスできます。

① 郵送の場合

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

◆ 証明書に関して ・ 必要な証明書の種類と枚数 ・ 必要な証明書の使用目的 ◆ 申請者に関して ・ 氏名（在学時から姓が変わられた方は、旧姓もご記入ください） ・ 生年月日 ・ 出身学部、学科名（文学部は専攻名） ・ 学籍番号 ・ 卒業年度 ・ 現住所（郵便番号を含む） ・ 電話番号	◆ 同封が必要なもの ・ 返信用封筒 返信先住所を明記してください。 （返信に必要な切手を貼付してください。） ・ 手数料 （手数料は同額の切手でも納金できます。）
---	---

② 直接、来学する場合

直接、来学して申請する場合は、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口へ申請してください。

(4) 学校学生生徒旅客運賃割引証（以下、「学割証」）（手数料無料、即日交付）

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証を持参してください。

なお、交付枚数は原則として年度毎に1人10枚、1回の交付枚数は1週間に2枚以内です。※年間10枚を超えて必要な場合は、理工学部教務課窓口で相談してください。

◆ 学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

ア. 学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。

イ. 学割証の不正使用を行なった場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、即交付分の回収がされます。他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。

ウ. 学割証は101km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の2割引、有効期間は発行日から3ヵ月間です。なお、夏・冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕を持って申し込むようにしてください。

※なお、学生8名以上で（ただし、学生8名の他に教職員（非常勤講師含む）1名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が5割引（ただし、引率者は3割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で求めてください）を出発日2週間前までに下記窓口に提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合……理工学部教務課窓口

クラブやサークルの場合……学生部

3. 各種証明書の交付について

各種証明書および申請書の発行申込等には、学生証が必要です。また、手続き方法は、証明書自動発行機で申請書を交付しますので、理工学部教務課窓口にて申請手続きを行ってください。

◆証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館1階エントランスホール	月～金	8：45～21：45
		土	8：45～17：15
	紫英館1階各学部教務課窓口	月～金	8：45～17：15 (但し、火曜日は10:30～)
		紫光館1階ロビー	月～土
大宮	西饗（新館）1階ロビー	月～金	8：45～20：15
		土	8：45～17：15
瀬田	1号館1階エントランスホール	月～土	9：00～17：30

⚠ 注意事項

- ・証明書自動発行機を利用するときは、「学生証」と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。
※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。
- ・上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。
- ・オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間帯については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。
- ・証明書自動発行機から直接発行が可能な証明書の交付および交付願の出力はいずれの学舎の証明書自動発行機でも対応しています。ただし、証明書自動発行機から直接発行ができない証明書については、所定の手続きが必要となりますので、各自が所属する理工学部教務課窓口で申請してください。
- ・学生証の再発行手続きが生じた場合、理工学部教務課窓口に申し出てください。証明書自動発行機にて申請書を交付しますので、必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口に提出してください。
- ・証明書自動発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も原則として証明書自動発行機にて対応します。
- ・夜間時間帯および土曜日において、証明書自動発行機に故障が生じた場合や「買い間違えた」場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

4. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」（「裁判員法」）に伴い、みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに理工学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について授業担当者に配慮を求めることとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

Ⅱ 授業休止の取り扱い基準

(交通機関の不通、台風等の場合の授業についての取り扱い)

ストライキ等により交通機関が不通となった場合や、台風による暴風警報が発令された場合は、下記の基準に従って下さい。

1. 全学休講とする場合

次の(a)(b)どちらの事態が発生した場合でも、その時点でただちに全学休講とします。

- (a) 下記のうち、2つ以上の交通機関の運行が中止された場合は、その時点でただちに全学休講とします。対象とする交通機関および区間は次のとおりです。

- | | | |
|-----|----------------------|----------|
| ① J | R | (米原～西明石) |
| ② | 京都市営バス・京都市営地下鉄 (全区間) | |
| ③ | 京阪電車 (出町柳～淀屋橋) | |
| ④ | 阪急電車 (河原町～梅田、梅田～三宮) | |
| ⑤ | 近鉄電車 (京都～橿原神宮前) | |

※ただし、**瀬田学舎**はJR(京都～米原)または帝産湖南交通(JR瀬田駅～龍谷大学)のいずれか1つの運行が中止された場合も休講とします。

- (b) 暴風警報が京都府南部(京都・亀岡、南丹・京丹波、山城中部、山城南部)、大阪府(北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内)、滋賀県南部(近江南部、東近江、甲賀)のいずれかに出された場合、その時点でただちに全学休講とします。

2. 授業等の開始基準

交通機関の運行再開および暴風警報解除の場合は、次の基準により授業等を実施します。

運行開始の時刻および警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前6時まで	1講時から平常どおり実施
午前10時まで	3講時から平常どおり実施
午後2時まで	6講時から平常どおり実施
午後2時以降	終日休講

3. その他の注意事項

- (1) 上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることもあります。
- (2) 定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験に関しては別途掲示により指示します。

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は、入学によって発生し、入学は、大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は、卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

<p>T</p> <p>┆</p> <p>L：文学部・文学研究科 E：経済学部・経済学研究科 B：経営学部・経営学研究科 J：法学部・法学研究科 T：理工学部・理工学研究科 C：社会学部・社会学研究科 W：国際文化学部 ・国際文化学研究科 S：短期大学部 F：法科大学院 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科</p>	<p>1 0</p> <p>┆</p> <p>入学年度（西暦） の下2桁</p>	<p>0</p> <p>┆</p> <p>学生区分（主たる学生区分を記す） 学部生：0～7 編転入生：8 再入学生：9 修士課程：M 博士後期課程：D 研究生：R 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V その他（学術研究生）：Z （特別専攻生）：S</p>	<p>0 0 1</p> <p>┆</p> <p>学部内における 個人番号</p>
--	---	---	--

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。ただし、頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の理工学部教務課窓口へ届け出て下さい。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ア 学業成績表を受領するとき。
 - イ 試験を受けるとき。
 - ウ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - エ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - オ 龍谷大学健康管理センターを利用するとき。
 - カ 図書館を利用するとき。
 - キ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するのので、大切に扱って下さい。ただし、在籍を証明する**在籍確認シール**は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。(新生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください。

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールと貼り替えてください。また、該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに理工学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに理工学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」(紛失・破損届)に必要な事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを理工学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに理工学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失(本学の学生でなくなる)する場合としては、**退学**と**除籍**の2種類があり、さらに退学はその内容により**依願退学**と**懲戒退学**に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失(本学の学生でなくなる)することです。依願退学は、学生の意志によるものであるから、何時でも願ひ出することはできますが、公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
- イ 当該学期分の学費を納入していること。(学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学する場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。)
 - また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ア 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- イ 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ウ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により願い出ること。
- イ 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ウ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ア 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。
 - 1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに理工学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。
- イ 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ウ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

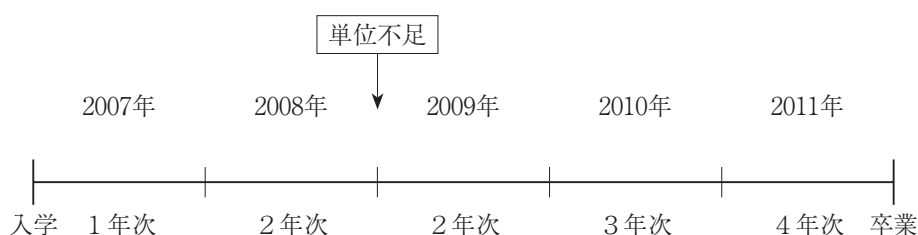
休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教

育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1ヵ月以内にしなければなりません。

6. 年次

理工学部では原級制度を実施するため所定の要件を満たしていなければ進級できません。この場合「年次」の進行は原年次復帰方式とします。学籍異動上は次のような扱いになります。

例) 2008年度を留年（留年異動日2009年4月1日）



7. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせして下さい。

8. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を理工学部教務課窓口に速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については選考の上これを許可することがある。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則第18条の3）

9. 9月卒業について

第1学期（前期）末（9月末日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、9月末日付にて卒業認定を受けることを希望する場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます。（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません。）詳細については理工学部教務課窓口にご相談して下さい。

Ⅳ 留学

龍谷大学には、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、以下のような留学制度があります。

経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。

詳しくは、国際部（深草学舎6号館1階）、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）を参考にしてください。

1. 交換留学

交換留学とは、学術研究および国際理解の発展のために海外の大学と学生交換協定を締結し、学費の免除や奨学金を受けて留学する制度です。この協定に基づき、原則として毎年同じ人数の学生を派遣・受入しています。

留学期間は原則1年間で、その期間、龍谷大学の学費免除（ただし、留学生在籍料は必要※、留学先大学の学費免除、宿舍費免除や奨学金支給等（ただし、条件は大学により異なります）の特典が受けられます。

募集案内、応募方法などは、国際部、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページを参照ください。

「学生交換協定校（18カ国37大学）」

地域	留 学 先		応募方法
アジア	中 国	復旦大学、上海師範大学、同済大学、 中国人民大学、大連外国語大学、大連工業大学	国際部にて募集し、語学試験および面接によって選考します。 応募締切日は各募集大学によって異なります。
	台 湾	台湾師範大学	
	韓 国	東国大学、東亜大学	
	タ イ	チュラロンコン大学、アサンプション大学	
北米	アメリカ	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、 アンティオークカレッジ、 南ミズーリ州立大学、米国仏教大学院、 カリフォルニア大学デービス校、 東テネシー州立大学、アイダホ大学	
	カナダ	キングス・ユニバーシティ・カレッジ、 カルガリー大学、クワントレン・ポリテクニク 大学、ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ	
オセアニア	オーストラリア	RMIT大学、マードック大学、 フリンダース大学	
ヨーロッパ	ロシア	モスクワ大学アジア・アフリカ学院	
	ウクライナ	キエフ大学	
	ポーランド	ワルシャワ経済大学	
	イギリス	ウエストミンスター大学、 リバプール・ジョン・ムアーズ大学	
	ドイツ	デュースブルグ・エッセン大学	
	フランス	リヨン第3大学	
	フィンランド	東フィンランド大学（旧ヨエンスウ大学）	
	スウェーデン	リネウス大学（旧ベクショー大学）	
	デンマーク	オーフス大学	
アフリカ	スペイン	バルセロナ自治大学、バレンシア大学	
	南アフリカ	クワズール・ナタール大学	

※留学先大学の都合により条件が変更になる場合や募集を行わない場合がありますので、国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）の情報を確認してください。

2. BIE Program留学

BIE Program (Berkeley Internship and English Program) は、龍谷大学のRyukoku University Berkeley Center (アメリカ・バークレー) を利用した本学独自の留学プログラムです。英語学習、インターンシップ(ボランティア活動)、講義を組み合わせたプログラムで5-week (5週間) とsemester (半年間) の2つのプログラムが年間2本ずつ(合計4本) あります。

留学期間は在学期間に算入され、5-weekプログラムは学部最大6単位、semesterプログラムは学部最大20単位まで認定可能です。

	留学期間	募集時期
5-week summer program	8月上旬～9月下旬	4月下旬～5月中旬
5-week spring program	2月中旬～3月下旬	10月中旬～10月下旬
Fall semester program	10月上旬～2月中旬	5月中旬～5月下旬
Spring semester program	3月下旬～7月上旬	11月中旬～11月下旬

3. 私費留学

各自で留学したい大学を探し、大学から承認を得て留学する方法で、龍谷大学から毎年多くの学生が私費留学をしています。

この留学は交換留学と同じく、留学期間は在学期間に算入され、取得した単位は単位認定の対象となります。

交換留学と大きく異なる点は、留学先大学の学費や寮費等が自己負担であること。また、留学手続き等は各自で行うことです。手続前に各学部教務課や指導教員と相談して下さい。

4. 個人留学(休学して留学する)

大学を休学した場合、留学先で勉強した期間は在学期間には算入されません。また、単位の認定も行われません。1年間(ないし半年間) 海外の専門語学学校で語学をみっちり勉強したいという学生や、ワーキングホリデーをしてみたい、海外でボランティアをしてみたいという学生がよく利用する方法です。

5. 短期留学

長期休業期間を利用し、現地で外国語等を学ぶことができるように種々の海外研修を実施しています。海外で集中語学研修と異文化体験をしたい学生にすすめます。

プログラムによって申込窓口が異なります。国際センター、文学部教務課、国際文化学部教務課の掲示板やホームページを参考にしてください。

V 通学について（自転車・バイク・自動車）

1. 自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。

しかし、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設駐車場等に駐車し、自動車通学する学生が後を絶ちません。これらは社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。

迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情も受けています。

このような自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導の上、厳しく処分することとしています。学生諸君の節度ある行動を強く求めます。

2. バイク・自転車通学

バイク・自転車は、多くの学生が利用しています。しかし、最近通学途上でバイクによる交通事故や自転車の接触事故等が多発しています。

また、「バイク・自転車が、狭い生活道路を、スピードを出して通行して危険である」等の苦情が近隣住民から寄せられています。大学までの通学途中には、小学校や保育園等があり、その保護者からも心配する声が寄せられています。

加害者・被害者の如何を問わず、交通事故による悲劇や地域住民への迷惑を回避するためにも交通ルール・マナーを遵守し、安全運転を心がけてください。

3. バイク・自転車の駐輪

バイク・自転車は必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置しているバイク・自転車は、駐輪場に掲示の「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。

また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損等について大学は一切関与致しません。確実な施錠はもちろんのこと、ふたつ以上の施錠（ツーロック）により盗難防止効果が向上します。各自の責任で被害に遭わないよう十分注意してください。

4. マナーアップキャンペーンについて

学生の学生生活におけるマナー向上促進のため、毎年定期的に「マナーアップキャンペーン」を実施しています。この様な機会を積極的に利用して、バイク・自転車通学における交通マナーアップに努め、安全な学生生活を心がけることを望んでいます。

5. 自動車の臨時入構許可について

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由がある時は、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に相談してください。

- ① 夜間にまで及ぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合 → 所属学部
- ② 長期間の疾病や障がいなどにより、公共交通機関の利用が困難な場合 → 所属学部
- ③ 大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合 → 学生部

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となりますので、必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

シラバス

教養教育科目
(共同開講科目)
(基礎科目)

教養教育科目
(共同開講科目)
(総合科目)

学部内共通科目

学科固有科目
<物質化学科>

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

基
礎
科
目

総
合
科
目

学
部
内
共
通

学
科
固
有

教
職
課
程

教
本
師
願
寺
派

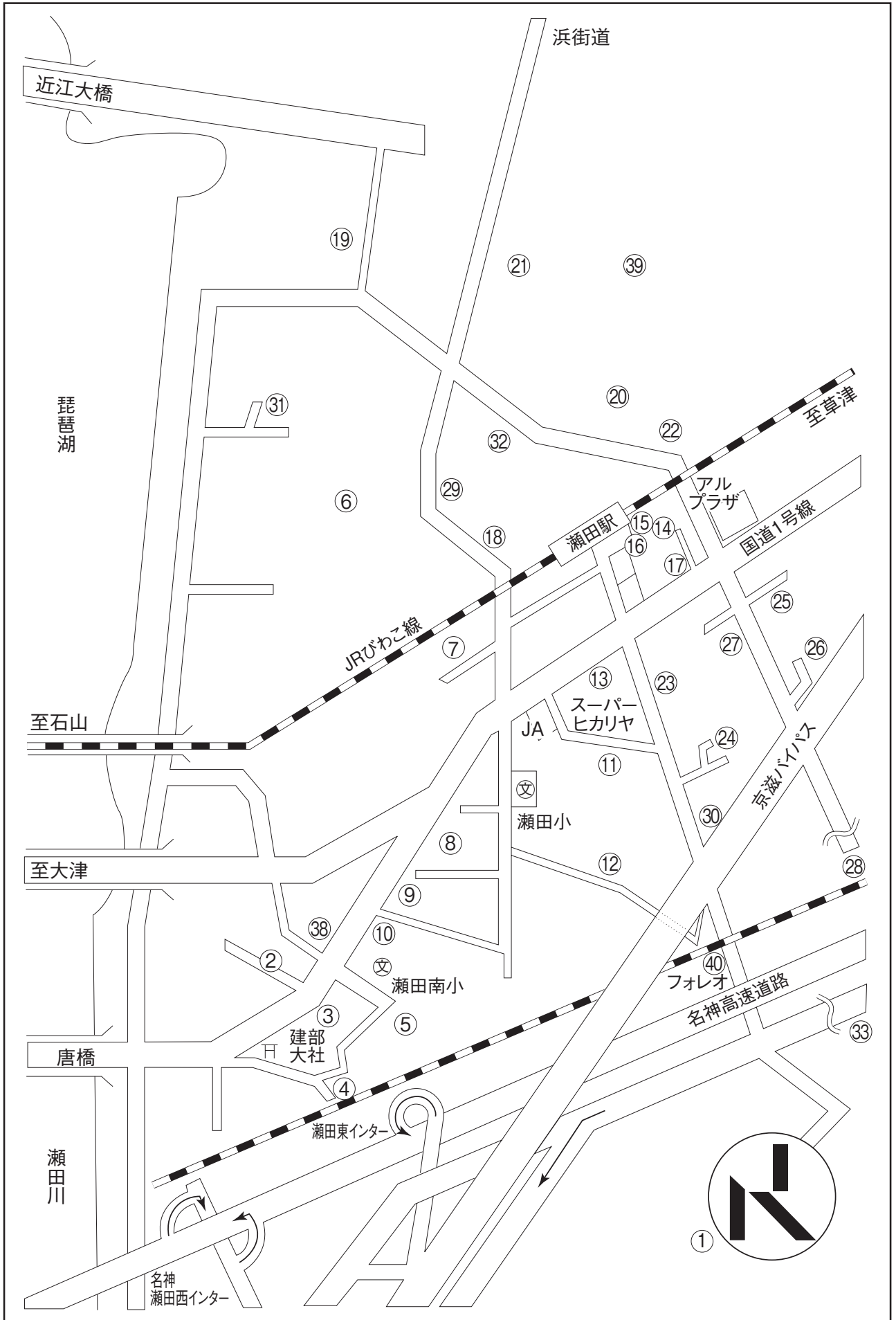
最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

瀬田学舎近隣医療機関

※診療科目、診療日、診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認して下さい。

病院名	住所	電話番号	診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土
① 龍谷大学 瀬田診療所	龍谷大学4号館B1階 保健管理センター内	077-543-7781	内科・精神科	午前	×	×	×	×	×	×
				午後1:00～4:00月1:30～4:30火・水・金	○	○	○	×	○	×
				午後 精神科1:30～3:00(要予約) 木	×	×	×	×	×	×
② 林医院	大津市瀬田1丁目4-16	077-545-5592	内科・循環器科	午前9:00～12:00月・水・金・土	○	×	○	×	○	○
③ 瀬田医院	大津市神領1丁目9-20	077-545-2575	内科・消化器科・ 皮膚科	午後5:30～8:00木	×	×	×	○	×	×
④ 加藤内科胃腸科	大津市神領2丁目39-3	077-545-8810	内科・胃腸科	午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後5:00～8:00月・水・金	○	×	○	×	○	×
⑤ 前田医院	大津市萱野浦13-11	077-545-3395	内科	午前9:00～12:30月～土	○	○	○	○	○	○
⑥ レイクサイドクリニック	大津市大江1丁目3-20	077-544-2995	内科・消化器科・ハビリ テーション科・小児科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後4:30～6:30月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
⑦ 鶴岡眼科医院	大津市大江2丁目12-38	077-544-1075	眼科	午前8:30～10:30月・水～土	○	○	○	○	○	○
				(第1・3・5週/土曜予約制)	×	×	○	○	○	○
				午後1:00～3:00月・水・金 午後3:00～4:00水・金(予約制)	×	×	○	×	○	×
⑧ 山口医院	大津市大江3丁目3-20	077-545-2207	内科・胃腸科	午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	
⑨ 駒井外科医院	大津市大江3丁目11-25	077-545-3067	外科	午後5:30～8:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
				午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
⑩ 矢沢耳鼻咽喉科医院	大津市大江3丁目24-15	077-544-3110	耳鼻咽喉科・ アレルギー科	午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
⑪ 岡島内科 胃腸科医院	大津市大江4丁目19-12	077-545-8600	内科・胃腸科	午後4:00～7:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
				午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
⑫ 玉川医院	大津市大江5丁目33-5	077-548-3431	内科・消化器科・リハビ テーション科・外科	午後5:30～7:30月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	○	○	×
⑬ 瀬田耳鼻咽喉科	大津市一里山1丁目 2-13	077-543-1490	耳鼻咽喉科・ アレルギー科	午後5:00～7:30月～水・金	○	○	○	○	○	×
				午前9:00～12:30月～土	○	○	○	○	○	○
⑭ 本田眼科	大津市大萱1丁目16-15	077-543-0878	眼科	午後3:30～7:00月～金	○	○	○	○	○	×
				午前9:30～12:30月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
⑮ 藤尾医院	大津市大萱1丁目17-5 本郷第2ビル4階	077-543-0310	内科・呼吸器科・ 外科	午後4:00～6:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
				午前8:30～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
⑯ 小西医院	大津市大萱1丁目17-35	077-543-3600	内科・皮膚科・ 泌尿器科・外科	午後5:00～8:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
				午前9:30～12:30月～土	○	○	○	○	○	○
⑰ 棚橋整形外科	大津市大萱1丁目20-12	077-545-8020	整形外科・外科・ リハビリテーション科	午後5:00～7:30月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
				午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
⑱ 桂医院	大津市大萱3丁目15-21	077-545-2217	皮膚科	午後3:30～6:30月～金	○	○	○	○	○	×
				午前9:00～13:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
⑲ 中橋歯科医院	大津市大萱1丁目13-20	077-543-0800	歯科	午後	×	×	×	×	×	×
				午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
⑳ ののむら眼科	大津市大將軍1丁目 13-12	077-543-5439	眼科	午後2:00～7:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午前9:00～12:30月～土(第4土曜休診)	○	○	○	○	○	○
㉑ たか耳鼻咽喉科医院	大津市大將軍1丁目 27-1	077-547-2021	耳鼻咽喉科・ アレルギー科	午後4:30～6:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
				午前9:30～12:30月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
㉒ かとう医院	大津市大將軍3丁目 8-16	077-544-1011	内科・循環器科	午後3:30～6:30月～金	○	○	○	○	○	×
				午前9:00～12:00月～水・金・土(第2土曜休診)	○	○	○	○	○	○
㉓ かとう医院	大津市大將軍3丁目8-16	077-544-1012	婦人科	午後5:00～7:00月・水・金	○	×	○	×	○	×
				午前9:00～12:00月・水・金・土(第2土曜休診)	○	×	○	×	○	○
㉔ 田中皮フ科医院	大津市一里山1丁目8-29 一里山中央ビル2階	077-545-1232	皮膚科	午後4:00～6:00火・金	×	○	×	×	○	×
				午前9:30～12:30月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
㉕ 川内内科医院	大津市一里山2丁目22-3	077-545-6789	内科・消化器科	午後4:00～7:30月～水・金	○	○	○	×	○	×
				午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
㉖ 瀬田クリニック	大津市一里山3丁目1-5	077-545-3945	内科	午後5:00～8:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
				午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
㉗ 井上医院	大津市一里山3丁目7-5	077-543-9400	内科・小児科・ 循環器科	午後1:00～5:00月・水・木	○	×	○	○	×	×
				午前8:30～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
㉘ 松本 ペインクリニック	大津市月輪5丁目22-22	077-543-6096	内科・外科・麻酔科	午後4:00～6:30月・水・金	○	×	○	×	○	×
				午後5:00～7:00水	×	×	×	×	×	×
㉙ 水谷医院	大津市大萱3丁目6-33	077-547-2789	消化器科・肛門科・ 外科・整形外科	午前9:00～12:00月・火・木～土	○	○	×	○	○	○
				午後4:00～8:00月～木(土は2:00～5:00)	×	○	○	○	×	○
㉚ はえうち診療所	大津市一里山4丁目25-21	077-543-3861	内科・胃腸科・ 肛門科・外科	午後3:00～5:00月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
				午前9:00～12:00月～土	○	○	○	○	○	○
㉛ まるやま歯科 クリニック	大津市一里山1丁目3-6	077-547-3560	歯科	午後9:00～午後1:00月～土	○	○	○	○	○	○
				午後3:00～8:00月～金	○	○	○	○	○	×
㉜ まつだ医院	大津市大萱2丁目4-20	077-543-3000	外科・胃腸科・内科・ 小児科・リハビリテ ーション科	午後4:00～7:00月・水・金	○	×	○	×	○	×
				午前8:30～11:30月～土	○	○	○	○	○	○
㉝ 滋賀医科大学 附属病院	大津市瀬田月輪町	077-548-2111 時間外 548-2770	全科 (救急指定病院)	午後	×	×	×	×	×	×
				初診 午前8:30～10:30 再診 午前8:30～11:00月～金	○	○	○	○	○	×
㉞ 大津市民病院	大津市本宮2丁目9-9	077-522-4607	全科 (救急指定病院)	午後	×	×	×	×	×	×
				午前8:30～11:30月～金	○	○	○	○	○	×
㉟ 大津赤十字病院	大津市長等1丁目1-35	077-522-4131	全科 (救急指定病院)	午後	×	×	×	×	×	×
				午前8:00～11:30月～金	○	○	○	○	○	×
㊱ 社会保険 滋賀病院	大津市富士見台16-1	077-537-3101	全科 (救急指定病院)	午後	×	×	×	×	×	×
				午前8:30～11:30月～金	○	○	○	○	○	×
㊲ 近江草津 徳洲会病院	草津市東矢倉3丁目 34-52	077-567-3610	全科 (救急指定病院)	午後	×	×	×	×	×	×
				午前9:00～11:30月～土	○	○	○	○	○	○
㊳ 大村整形外科医院	大津市大江2丁目30-8	077-547-3551	整形外科・リハビ テーション科	午後5:00～7:30月～金(内科)	○	○	○	○	○	×
				午前9:00～12:00月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
㊴ 大道医院	大津市大將軍1丁目15-7	077-547-3650	内科・呼吸器科・ 循環器科	午後4:00～7:00月～水・金	○	○	○	×	○	×
				午前9:00～12:00月・火・木～日	○	○	×	○	○	○
㊵ こはらデンタル クリニック	大津市一里山7-1-1 フォレオ大津一里山	077-514-8714	一般歯科・口腔外科	午後	○	×	○	×	○	○
				午前10:00～13:00月～水・金～日	○	○	○	×	○	○
				午後3:00～8:00月・水・金～日	○	×	○	×	○	○

付
録



付
録

滋賀県救急医療情報ネット

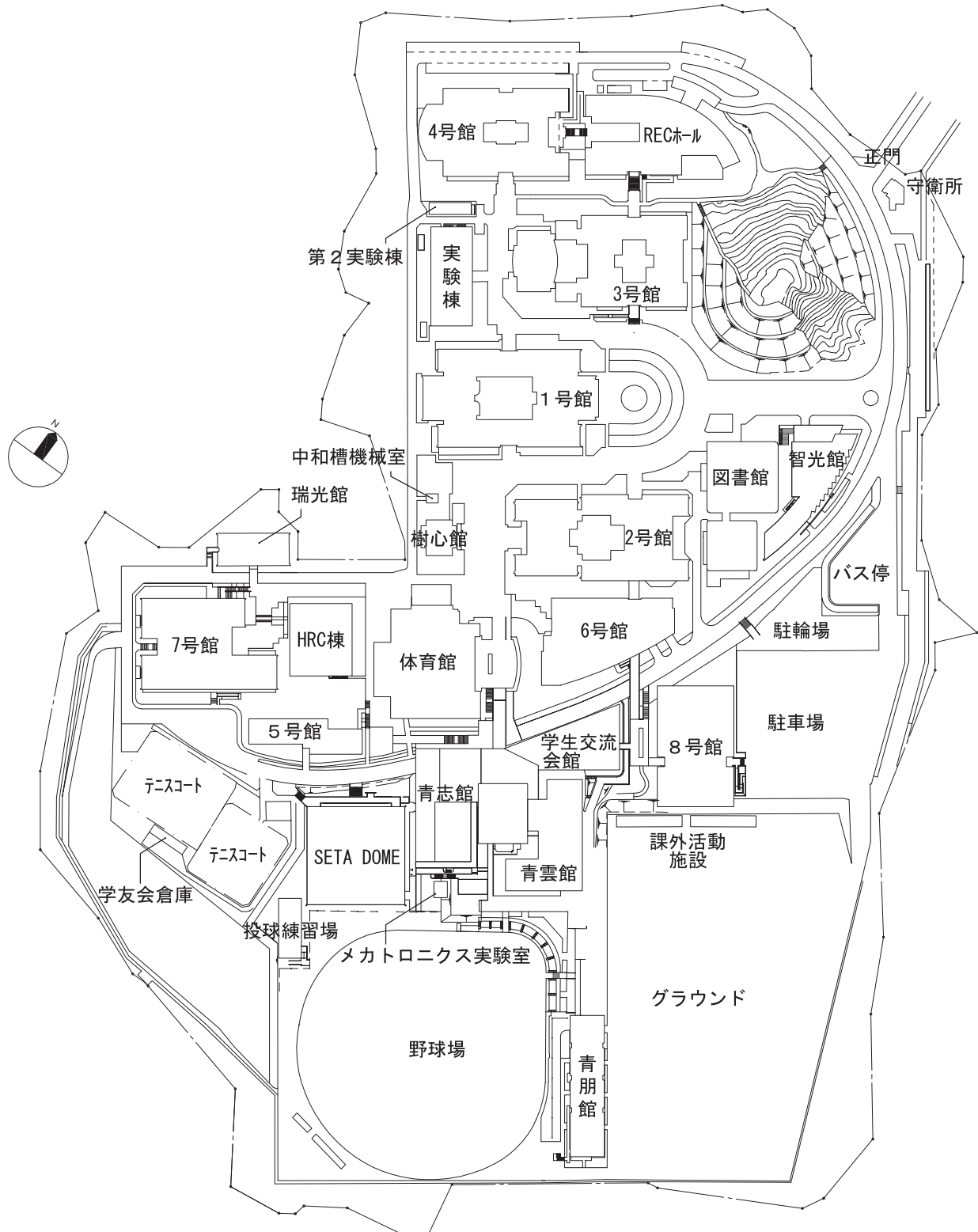
<http://www.shiga.qq-net.jp/>

利用になるための注意

- ※電話・FAXで現在診療中の医療機関を案内するサービスです。
- ※事前にメモの用意をしておくとう便利です。
- ※案内を受けた病院・診療所に行く場合は、必ず電話で確認を行ってください。
- ※重症の場合や命にかかわるような症状の場合は、救急車を要請してください。
- ※一部のダイヤル式電話機では、利用ができない場合がありますので注意してください。

医療機関をお探しの地域	電話番号
大津市	077-525-3799
草津市、守山市、栗東市、野洲市	077-553-3799
甲賀市、湖南市	0748-62-3799
近江八幡市、東近江市（旧八日市市・永源寺町・五個荘町・能登川町・蒲生町）、蒲生郡	0748-23-3799
愛知郡、東近江市（旧湖東町・愛東町）	0749-45-3799
彦根市、犬上郡	0749-23-3799
長浜市、米原市、東浅井郡、伊香郡	0749-63-3799
高島市	0740-22-3799

龍谷大学瀬田学舎見取図



付
録

履修要項・Syllabus利用の手引き

学期はじめのQuestion

- ◆ 1年間のスケジュールはどこを読めばいいですか。
→ 学年暦
- ◆ 授業を受けるにあたって注意することはありますか。
→ P2：履修をはじめるにあたって
- ◆ 単位ってなんですか。
→ P3：単位制度と単位の認定
- ◆ 教養教育科目と固有科目、必修・選択・グループ必修・随意の違いってなんですか。
→ P28：教育課程の編成・履修方法
- ◆ 受たい科目の内容を知りたいのですがどこを読めばいいですか。
→ P87：シラバス
- ◆ 登録に際しての方法や注意することはありますか。
→ P8：履修登録
- ◆ 教職などの資格についてどこを読めばいいですか。
→ P69：諸課程等の履修方法
- ◆ 他学科の科目を受講するにはどうすればよいですか。
→ P62：他学科科目の履修について
- ◆ 大学コンソーシアム京都などの単位互換制度を受けるにはどうすればよいですか。
→ P63：単位互換制度について

学期途中のQuestion

- ◆ どのような場合に休講になるのですか。
→ P78：授業休止の取り扱い基準
- ◆ 証明書を発行するにはどうしたらよいですか。
→ P74：窓口事務
- ◆ 講義の内容が理解できず困っているのですが。
→ P17：教育支援
- ◆ 留学したいのですが。
→ P84：留学
- ◆ 休学について知りたいのですが。
→ P79：学籍の取り扱い

学期末のQuestion

- ◆ 成績の評価はどのようになっているのですか。
→ P12：成績評価
- ◆ 定期試験等を受験する際に注意すべきことは何ですか。
→ P14：筆答試験
- ◆ 追試験について知りたいのですが。
→ P14：筆答試験
- ◆ 進級するためにはどのような要件があるのですか。
→ P42、P48、P54：固有科目の履修（卒業・進級の要件）
※入学年度により異なるため注意すること
- ◆ 過去問などを知りたいとき(数理情報学科)
→ <http://whale2.math.ryukoku.ac.jp> 参照（要パスワード）